

# 愛知きわみ看護短期大学開示情報

## 1. 学科ごとの名称・及び研究上の目的

### 学科ごとの名称

愛知きわみ看護短期大学 設置学科・課程の名称

設置学科名	看護学科
課程名	看護師養成課程

### 研究上の目的

#### 愛知きわみ看護短期大学 学則

第1条 愛知きわみ看護短期大学(以下「本学」という。)は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授研究し、看護に関する高度な専門知識と実践的能力及び幅広い教養並びに豊かな人間性を備え、保健・医療・福祉の向上、発展に寄与できる医療専門職者を育成することを目的とする。

### 教育目標

#### 深い専門知識・技術を持つ看護実践力のある人材を育成するための目標

1. 人間を総合的に理解し対象の人権、価値観、尊厳を尊重した姿勢を堅持することができる人材を育成する。
2. 誠実な心で共感をもって人々に接することができる人材を育成する。
3. 学んだ知識・技術を活用し、対象の成長・自己実現を援助するとともに自身も成長することができる人材を育成する。
4. 看護の専門知識・技術を総合的な判断により創造的に対象に適応させた看護の実践ができる人材を育成する。
5. 研究に関心を持ち自らを向上させるように主体的に学習を継続する能力を持つ人材を育成する。
6. 看護の担うべき役割を展望し、発展させ得る基盤となる能力を持つ人材を育成する。
7. 社会の多様な情報を生かし、地域社会の発展に寄与する基盤を持つ人材を育成する。

2. 専任教員数

職位	氏名	保有学位	担当領域	研究業績
学長(教授)	御供 泰治	博士	専門基礎分野	紀要に掲載
教授	小澤 淑子	修士	基礎分野	紀要に掲載
教授	竹下 美恵子	博士	基礎看護学	紀要に掲載
教授	大屋 演子	修士	成人看護学	紀要に掲載
教授	野田 貴代	博士	母性看護学	紀要に掲載
准教授	石井 成郎	博士	基礎分野	紀要に掲載
准教授	小澤 雪絵	博士	成人看護学	紀要に掲載
准教授	石田 弘子	修士	高齢者看護学	紀要に掲載
准教授	柴 邦代	修士	小児看護学	紀要に掲載
准教授	御田村 相模	修士	在宅看護論	紀要に掲載
講師	佐久間 佐織	修士	基礎看護学	紀要に掲載
講師	園田 裕子	修士	成人看護学	紀要に掲載
講師	出口 睦雄	修士	精神看護学	紀要に掲載
助教	伊東 裕康	博士	基礎分野	紀要に掲載
助教	小澤 香奈恵	専門士	基礎看護学	紀要に掲載
助教	市川 恭子	修士	基礎看護学	紀要に掲載
助教	近藤 裕子	専門士	成人看護学	紀要に掲載
助教	荒堀 裕子	修士	成人看護学	紀要に掲載
助教	牧田 和美	専門士	高齢者看護学	紀要に掲載
助教	三宅 香織	専門士	小児看護学	紀要に掲載
助教	都竹 友季子	専門士	母性看護学	紀要に掲載
助教	川合 奈緒美	学士	精神看護学	紀要に掲載
助教	深谷 由美	学士	在宅看護論	紀要に掲載
専任教員合計			23名	

(平成23年5月1日現在)

3. 校地・校舎等の施設その他の学生の教育研究環境  
 (キャンパスの概要、運動施設概要及びその他の学習環境、主な交通手段)

校地・校舎等の施設

● 各種講義室	● 教員研究室	● 基礎・成人看護学実習室
● 在宅看護実習室	● 小児看護実習室	● 母性看護実習室
● マルチメディア教室	● 体育室	● 標本室
● 自習室	● 図書館	● 大ホール
● 男女更衣室(シャワー設備完備)	● 学生支援センター	● 学生食堂(さわみカフェ)
● 学生ラウンジ	● グラウンド	● その他事務系施設等

4. 主な交通手段

尾張一宮駅、名鉄一宮駅からの交通アクセス

3 番乗り場から「宮田本郷」行、「川島」行のどちらかで「中島通一丁目」下車(所要時間約 10 分)。  
 徒歩 2 分。

バス以外の通学方法

- ・自動車通学可(駐車場は各自確保してください。学内への乗り入れはできません)
- ・バイク通学可
- ・自転車通学可(学生利用可駐輪場 200 台)

5. 授業料、入学料その他の大学等が徴収する費用

試験種別	1 年次		2 年次以降	
	前期	後期	前期	後期
入学金	200,000 円	-	-	-
授業料	250,000 円	250,000 円	250,000 円	250,000 円
教育充実費	200,000 円	200,000 円	200,000 円	200,000 円
実験実習費	200,000 円	200,000 円	200,000 円	200,000 円
内訳	850,000 円	650,000 円	650,000 円	650,000 円
合計	1,500,000 円		1,300,000 円	

## 6. 教員組織

教員組織（領域）

		基礎領域	専門基礎領域	基礎看護学領域	成人看護学領域	高齢者看護学領域	小児看護学領域	母性看護学領域	精神看護学領域	在宅看護学領域	合計
教授	男	0名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名
	女	1名	0名	1名	1名	0名	0名	1名	0名	0名	4名
准教授	男	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名
	女	0名	0名	0名	1名	1名	1名	0名	0名	1名	4名
講師	男	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	1名
	女	0名	0名	1名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	2名
助教	男	1名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	1名
	女	0名	0名	2名	2名	1名	1名	1名	1名	1名	9名
助手	男	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
	女	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名
合計	男	2名	1名	0名	0名	0名	0名	0名	1名	0名	4名
	女	1名	0名	4名	5名	2名	2名	2名	1名	2名	19名
	男女計	3名	1名	4名	5名	2名	2名	2名	2名	2名	23名

7. 入学生に関する受け入れ方針、入学者数、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数

入学生に関する受け入れ方針

- アドミッションポリシー(入学者受入方針)

本学は次のような人を求めています。

1.	相手を尊重し、人の幸せを願い、そのために情熱をそそぐ人
2.	他人(ヒト)のために尽くす気持ちをもった人
3.	常に目標に向かって真剣に取り組む人
4.	国際的な視野で物事を考えることのできる人

- 禁煙対策

医療職をめざす者として、受験資格に「非喫煙者」を掲げています。

愛知きわみ看護短期大学では、平成20年度の入学試験より、わが国初めて受験者への受験資格に「非喫煙者」という項目を掲げています。

これは看護の心得を学ぶ学生のうちから精神面においても健康を意識できる環境であるとともに、将来、健康と命を守る医療従事者として活躍するための、大事な条件のひとつとして考えているからです。

喫煙は、喫煙者自身の健康を害するだけでなく、受動喫煙等により非喫煙者の健康をも害しています。また、医療費の増大など国民に不要の社会的コストを負担させる要因ともなっています。本学の取組みと意思を理解・指示してくれる学生さんをお待ちしています。

- 入学者数、入学定員、収容定員、在学者数、卒業(修了)者数、進学者数、就職者数(平成23年度学校基礎調査)

入学者数 (平成23年度)	入学定員	収容定員	在学者数 (3学年合計)	卒業(修了)者数 (平成23年度)	進学者数 (平成23年度)	就職者数 (平成23年度)
87人	80人	240人	256人	76人	5人	71人

(平成23年5月1日現在)

8. 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画

- カリキュラム

別添シラバス参照

- 年間の授業計画

別添シラバス参照

9. 学習の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

- 学習の成果に係る評価  
各教科のシラバス参照
- 卒業又は修了の認定に当たっての基準(学則)  
愛知さわみ看護短期大学 学則の第24条及び第25条のとおり

<p>(卒業の要件)</p> <p>第24条 本学を卒業するためには、学生は3年以上在学し、別表2の定めるところにより、所定の単位を修得しなければならない。</p>
<p>(卒業)</p> <p>第25条 本学に3年以上在学し、本学則の定める授業科目及び単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。</p> <p>2 学長は、卒業を認定した者に対して、卒業証書を交付する。</p>

別表2

卒業要件単位数

	必修科目	選択科目	合計
基礎分野	7単位	10単位以上	17単位以上
専門基礎分野	22単位		22単位
専門分野 I	13単位		13単位
専門分野 II	40単位		40単位
統合分野	12単位		12単位
卒業要件単位数	94単位	10単位以上	104単位以上

## 10. 学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援

- 学生の修学に係る支援

卒業要件の単位を修めて受験資格を得ても、国家試験を合格しなければ看護師免許は得られません。そこで卒業生全員が国家試験を合格し、看護師として社会に貢献できることを目的に、教員一丸となって3年間の学生教育指導にあたります。綿密な教育計画のもと、国家試験対策講座を充実させています。

- 進路選択に係る支援

本学では、進路指導委員会を設置しており、卒業後にめざす看護師像、希望する勤務形態、勤務地など、学生それぞれが希望する進路に応じて、適切な就職指導を心がけています。

- 心身の健康等に係る支援

平成22年度から学生支援センター主導の下、学生相談室を設置し、専門の相談員が、学生の直面する多様な問題や悩みについての支援を実施している。

11. 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報

(履修モデルの設定、主要科目の特徴、科目ごとの目標等)

● 履修モデルの設定

本学のカリキュラムは看護師の資格取得を目指し、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に基づいた履修モデルが設定されている。

● 主要な科目(抜粋)

基礎看護技術Ⅲ	診療の補助技術を学び、医療における安全を最優先に考える態度を学んでいきます。また、学外実習に向けて、患者さまの個別性に合った看護技術を、総合的に実践する能力を身につけます。
成人看護援助方法Ⅳ	成人期にある患者さまを総合的にとらえ、健康問題を査定し、解決をしていく能力をアップさせるための演習を行います。小グループによるシミュレーション授業を通じて、看護援助方法を身につけます。
現代社会と家族	現代社会と家族のつながりを理解します。社会通、家族の健康を支援するための理論と方法について考え、家族をとりまく地域社会や行政、地域のヘルスケアシステムなどに影響を及ぼす社会厚生要素も学びます。
小児看護学概論	小児の特徴および成長・発達や家族の評価に関わる理論について講義し、健全育成を支援する小児看護の特徴について学びます。また、小児を取り巻く社会の変化を踏まえた小児看護のあり方について考察します。
周産期看護論	周産期における母性の特性を理解しながら、周産期各期での母子の生理的、心理的、社会的過程に基づいた保健・看護の必要性と看護援助の基本について、しっかりと確実に学んでいきます。
看護過程	看護の実践に重要な対象の情報を系統的にアセスメントし、科学的な根拠に基づいた思考過程を学びます。看護過程の各要素を学び、アセスメント、問題点の抽出、計画立案、実践、評価について事例を通して理解します。
医療情報学	これまでに学習した情報処理スキルを活用して、医療に関する統計資料の利用方法や看護研究の基礎を学びます。具体的には、実験・調査等の進め方や分析のための統計処理技術、医療データの評価方法を学びます。
心の科学	人間の心のしくみや働き方に関する基本的な知識を学びます。具体的には、社会心理学(人間関係)および発達心理学(発達段階)の諸理論を中心に、看護実践を行う上で必要となる心理学各領域を学びます。

● 科目ごとの目標等

シラバス参照

12. 平成22年度末の財産目録  
事業報告書内で公開

13. 平成22年度末の貸借対照表  
事業報告書内で公開

14. 平成22年度資金収支計算書  
事業報告書内で公開

15. 平成22年度計算書類に係る監事の監事報告書については、監事報告書の内容(日付・監事名を含む)を公表していますか。  
公開している

16. 教員一人当たりの学生数

教員総数	学生総数	教員一人当たりの学生数
23人	256人	約11人

(平成23年5月1日現在)

17. 収容定員充足率

	(A)在学生数(学年合計)	(B)収容定員(3学年合計)	(A/B*100)収容定員充足率
看護学科	256人	240人	約106.7%

(平成23年5月1日現在)

18. 年齢別教員数

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
男	0名	2名	1名	0名	0名	1名	4名
女	1名	7名	4名	6名	1名	0名	19名
合計	1名	9名	5名	6名	1名	1名	23名

(平成23年5月1日現在)

19. 職階別教員数

	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
男	1名	1名	1名	1名	0名	4名
女	4名	4名	2名	9名	0名	19名
合計	5名	5名	3名	10名	0名	23名

(平成23年5月1日現在)

20. 専任教員と非常勤教員の比率

	比率		専任教員	非常勤教員	合計
	専任教員	非常勤教員			
男	15%	85%	4人	23人	27人
女	66%	34%	19人	10人	29人
合計	41%	59%	23人	33人	56人

(平成23年5月1日現在)

21. 学位授与数または授与率

学位授与数
371人

(平成23年5月1日現在)

22. 就職先の情報(<http://ns.aichi-kiwami.ac.jp/career/results.html>)

愛知県	大雄会病院、愛知医科大学附属病院、愛知県がんセンター中央病院、安城更生病院、一宮市立市民病院、一宮西病院、春日井市民病院、江南厚生病院、小牧市民病院、聖霊病院、大同病院、中京病院、常滑市民病院、豊田厚生病院、豊橋市民病院、名古屋医療センター、名古屋掖済会病院、名古屋記念病院、名古屋市立大学病院、名古屋セントラル病院、名古屋第一赤十字病院、名古屋第二赤十字病院、名古屋大学医学部附属病院、碧南市民病院、藤田保健衛生大学病院、南生協病院 ほか
岐阜県	朝日大学歯学部附属村上記念病院、大垣市民病院、岐阜大学医学部附属病院、岐阜県立多治見病院、土岐市立総合病院、長良医療センター、松波総合病院 ほか
三重県	松阪市民病院、山田赤十字病院 ほか
静岡県	市立伊東市民病院、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、浜松医科大学附属病院 ほか
長野県	相澤病院、岡谷塩嶺病院
福井県	福井県立病院、福井大学医学部附属病院
兵庫県	神戸赤十字病院
島根県	松江赤十字病院
大分県	大分大学医学部附属病院
東京都	昭和大学医学部附属病院、東邦大学医療センター大森病院

23. 留学生数及び海外派遣学生数

留学生数	海外派遣学生数
なし	なし

24. 協定相手校

協定相手校
なし

25. 社会貢献活動

実施年度	活動名	概要
平成16年度	-	-
平成17年度	公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>• あなたの内臓年齢は？</li> </ul>
平成18年度	公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 我が家と家族の健康 Health of the Home - ナイチンゲールに学ぶ暮らしのヒント -</li> <li>• コレステロールは怖くない - 調理法がかなめ -</li> </ul>
平成19年度	公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 男と女の違いは… - 男だって妊娠できる!?! -</li> <li>• 楽々体位変換のテクニック</li> <li>• はじめてのコミュニケーション - 初対面の人と話すときの工夫 -</li> </ul>
平成20年度	公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 健やかに老いる</li> <li>• 英語は大丈夫？海外での病気</li> <li>• 看護と法律 - 安全な医療を目指して！ -</li> </ul>
平成21年度	公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 寿命をきめる内臓年齢</li> <li>• 手洗いのススメ - 看護ケアは手洗いに始まり、手洗いに終わる -</li> <li>• 災害看護 - 看護学ゼミナールのまとめ -</li> </ul>
平成22年度	公開講座	<ul style="list-style-type: none"> <li>• プリパレーション ~つくってまなぶ♡健康絵本~</li> <li>• 精神障害児と偏見</li> <li>• 介護保険アラカルト</li> </ul>

26. 大学間連携

大学間連携
平成23年5月1日現在 なし

27. 産官学連携

産官学連携
平成23年5月1日現在 なし

28. 経年推移の状況がわかる資料  
作成済
29. 財務比率等を活用して財務分析をしている資料  
作成中
30. グラフや図表を活用した資料  
事業報告書

授業科目・単位数（第8期生）												
	授業科目	科目コード	単位数		時間	1年		2年		3年		
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	人間と社会の理解	スポーツ科学	11101	1		15	15					
		保健体育実技	11102	1		45	45					
		社会福祉論*	11103	2		30			30			
		現代社会と家族	11104	2		30		30				
		暮らしと経済	11105		2	30		30				
		歴史と文化	11106		2	30	30					
					(2)							
	知識と技術の探求	生物学	11201		1	15	15					
		化学	11202		1	15	15					
		物理学	11203		1	15		15				
		数と統計*	11204		1	15			15			
					(2)							
	関係性の展開	情報処理入門*	11301	1		30	30					
		英語Ⅰ	11302		2	30	30					
		英語Ⅱ	11303		2	30		30				
英語Ⅲ		11304		2	30			30				
英語Ⅳ		11305		2	30			30				
英語Ⅴ*		11306		2	30				30			
英語Ⅵ		11307		2	30					30		
異文化と言語		11308		2	30	30						
			(6)									
基礎分野小計				7	22	480	210	105	75	60	30	0
(選択科目必修単位)					(10)	(150)						
専門基礎分野	人間と社会の理解	人体の構造・機能Ⅰ*	12101	2		60	60					
		人体の構造・機能Ⅱ*	12102	2		60		60				
	知識と技術の探求	栄養と代謝	12201	1		30		30				
		微生物学・免疫学*	12202	1		30	30					
		臨床薬理学	12203	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅰ（内科系1）*	12204	1		30		30				
		疾病・病態論Ⅱ（内科系2）*	12205	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅲ（外科系1）*	12206	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅳ（外科系2）*	12207	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅴ（産科・婦人科）*	12208	1		30		30				
		疾病・病態論Ⅵ（小児科）*	12209	1		30			30			
	関係性の展開	心の科学	12301	2		30		30				
		臨床心理学	12302	2		30	30					
		公衆衛生学*	12303	1		15			15			
		医療概論*	12304	1		15	15					
医療管理総論*		12305	1		15		15					
医療管理各論Ⅰ*		12306	1		15		15					
医療管理各論Ⅱ*		12307	1		15				15			
専門基礎分野小計				22		525	135	210	165	15	0	0
専門分野Ⅰ	人間と社会の理解・専門知識と技術の探求	看護学概論	13101	1		30	30					
		看護過程	13102	1		30		30				
		チーム医療論	13103	1		15		15				
		フィジカルアセスメント	13104	1		30			30			
		基礎看護技術Ⅰ	13105	2		60	60					
		基礎看護技術Ⅱ	13106	2		60	60					
		基礎看護技術Ⅲ	13107	2		60		60				
		基礎看護学実習Ⅰ	13108	1		45	45					
		基礎看護学実習Ⅱ	13109	2		90		90				
		専門分野Ⅰ小計				13	0	420	195	195	30	0
は選択科目（ ）は選択科目の卒業要件単位数												

	授 業 科 目	科目コード	単位数		時間	1年		2年		3年		
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野 II	人間と社会の展開・理解・専門知識と技術の探求・実践	成人看護学概論	14101	1		30		30				
		成人看護援助方法 I	14102	1		15			15			
		成人看護援助方法 II	14103	2		45			45			
		成人看護援助方法 III	14104	2		45			45			
		成人看護援助方法 IV	14105	2		45				45		
		高齢者看護学概論	14111	1		15		15				
		高齢者看護援助方法 I	14112	1		30			30			
		高齢者看護援助方法 II	14113	1		30				30		
		高齢者看護援助方法 III	14114	1		30				30		
		小児看護学概論	14121	1		30		30				
		小児看護援助方法 I	14122	1		30			30			
		小児看護援助方法 II	14123	2		60				60		
		母性看護学概論	14131	1		15	15					
		周産期看護論	14132	1		30			30			
		母性看護援助方法	14133	2		60				60		
		精神看護学概論	14141	1		15	15					
		精神看護援助方法 I	14142	1		30			30			
		精神看護援助方法 II	14143	1		30				30		
		精神保健論	14144	1		30			30			
		成人看護学実習 I	14106	2		90				90		
		成人看護学実習 II	14107	4		180					90	90
		高齢者看護学実習 I	14115	2		90					45	45
		高齢者看護学実習 II	14116	2		90					45	45
		小児看護学実習	14124	2		90					45	45
母性看護学実習	14134	2		90					45	45		
精神看護学実習	14145	2		90						90		
専門分野 II 小計			40	0	1335	30	75	255	345	270	360	
統合分野	人間と社会の展開・理解・専門知識と技術の探求・実践	在宅看護概論	15101	1		30			30			
		在宅看護援助方法 I	15102	2		60				60		
		在宅看護援助方法 II	15103	1		30					30	
		看護管理論*	15111	1		30					30	
		医療情報学*	15112	1		30				30		
		医療安全論	15113	1		30				30		
		災害・国際看護	15114	1		30				30		
		在宅看護実習	15104	2		90					45	45
		看護学統合実習	15121	2		90						90
		統合分野小計			12	0	420	0	0	30	150	105
合 計			94	22	3180	570	585	555	570	405	495	
卒業要件単位数			104									

	授業科目	科目コード	単位数	時間	前期		後期	
					前期	後期	前期	後期
自由科目	診療情報管理士	国際疾病分類概論*	S 101	1	15	15		
		国際疾病分類法 I *	S 102	2	30	30		
		国際疾病分類法 II *	S 103	2	30			30
		診療情報管理論 I *	S 104	1	15	15		
		診療情報管理論 II *	S 105	1	15			15
		病院事務管理実習 I *	S 106	1	45	45		
		病院事務管理実習 II *	S 107	1	45	45		
		小計		9	195	150		45
		診療情報管理士受験資格必修単位		33	765			

\*診療情報管理士受験資格取得に必要な科目

科目名	スポーツ科学	担当教員名	黒柳淳
科目コード 11101	1年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	基礎分野(人間と社会の理解)	授業形態	講義
科目概要	人間が生涯にわたり健康を維持獲得するための運動について理解する。自他の健康を維持獲得するために運動による健康づくりに対する理解を深める。身体運動のメカニズムについて学習するとともに、身体の運動機能が社会的環境や加齢によってどのように変化するか、またこれらに対する身体運動の実践に伴う身体機能の改善の有無について理解を深める。		
授業計画	1	WHO保健憲章の前文中にある「健康の定義」を中心として、健康をどのように考えていったらよいのかを学ぶ。	
	2	「健康の定義」の中で第一の柱となる体の健康についての判断材料や目安を学ぶ。また、各自の健康管理についてのレポートを書き考察をする。	
	3	健康な体を作るためのトレーニング原理前半の全面性の原理や漸進性の原理などを説明する。特に体力についての理解を深める。	
	4	健康な体を作るためのトレーニング原理後半の過重負荷の原理や自覚性の原理などを説明する。特に自ら進んで行うことの大切さを理解する。	
	5	「健康の定義」の第二の柱である心の健康と第三の柱である社会的な健康について学び、体の健康との関連も理解する。	
	6	過去、体育の授業を中心に行われてきた種々の体力測定について、その目的と結果の評価及び生かし方について学ぶ。	
	7	各自の体格、体力について確認し自己評価を行う。さらに、これからの健康・体力づくりのための体の動かし方を考察する。	
	8	まとめと試験	
受講要件			
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆記試験60%</li> <li>・レポート20%</li> <li>・授業態度20%</li> </ul>		
注意・要望事項	テレビやインターネット等を通して、日常生活の中でも自他の健康に対する理解を深めてもらいたい。		
テキスト	授業内で資料を配布		

科目名	保健体育実技		担当教員名	黒柳淳 野中章臣
科目コード 11102	1年前期(必修)		単位数(時間数)	1単位(45時間)
科目区分	基礎分野(人間と社会の理解)		授業形態	演習
科目概要	<p>スポーツ科学で学んだ身体運動のメカニズムや身体の運動機能が社会的環境や加齢によってどのように変化するか、および、身体運動の実践に伴う身体機能の改善の有無を理解した上で、健康づくりに効果的な身体運動を体験学習し、将来その実践と指導ができる能力を修得することを目的に保健体育の実技について学ぶ。</p>			
授業計画	1	授業の目的、目標、実施種目とその内容及び服装などガイダンスする。	14	テニスの応用技術練習 1. グランドストローク 2. ボレー 3. サービス 4. スマッシュ
	2	室内で実施可能な体力テストを行い、	15	バレーボールの応用技術練習 1. パス 2. サーブ 3. スパイク 4. レシーブ 5. ブロック
	3	各自の現在の体力を把握する。	16	テニスの応用技術練習 バレーボールの応用技術練習
	4	テニスの基礎運動 1. フットワーク 2. スイング 3. 各種ボール 扱い(ボールに慣れる) 4. グリップ	17	ゲーム形式とルール
	5	バレーボールの基礎運動 1. フットワーク 2. キャッチ 3. ジャンプ 4. ボール慣れ	18	ゲーム
	6	テニスの基礎技術練習 1. グランドストローク (1) フォアハンド (2) バックハンド 2. ボレー	19	
	7	バレーボールの基礎技術練習 1. パス(1人,対人,グループ) (1) オーバーハントパス (2) アンダーハントパス 2. サーブ	20	ゲーム
	8	テニスの基礎技術練習 1. グランドストローク 2. ボレー 3. サービス	21	
	9	バレーボールの基礎技術練習 1. パス 2. サーブ 3. スパイク	22	ゲーム
	10	テニスの基礎技術練習 1. グランドストローク 2. ボレー 3. サービス 4. スマッシュ	23	まとめと試験
	11	バレーボールの基礎技術練習 1. パス 2. サーブ 3. スパイク 4. レシーブ 5. ブロック		
	12	テニスの応用技術練習 1. グランドストローク 2. ボレー 3. サービス 4. スマッシュ		
	13	バレーボールの応用技術練習 1. パス 2. サーブ 3. スパイク 4. レシーブ 5. ブロック		
受講要件				
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実技テスト60%</li> <li>・レポート20%</li> <li>・授業態度20%</li> </ul>			
注意・要望事項	健康、安全に留意して積極的に体を動かしてもらいたい。			
テキスト	なし			

				1-3
科目名	歴史と文化		担当教員名	佐藤尚子
科目コード 11106	1年前期（選択）		単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（人間と社会の理解）		授業形態	講義
科目概要	<p>歴史と文化は私たちの現在の生活に密接に関係し、私たちの生を規定し支えている。この授業では歴史と文化が私たちの生活とどのように関係しているのかをヨーロッパに軸足を置きながら、世界の他の地域（アジア・アフリカ・アメリカなど）を視野に入れて学び、人間と社会を深く理解するための礎とする。特に宗教・政治・食・病気をキーワードとして講義を進める。</p>			
授業計画	1	なぜ歴史と文化を学ぶのか。人類の歴史概観 授業の進め方の説明		
	2	ギリシャ文明(アテネの人々の暮らし--民主制・多神教・オリンピア)		
	3	古代ローマ帝国 食・医療・建築・宗教（多神教から一神教へ）		
	4	三大宗教から考える歴史と文化	キリスト教	
	5	三大宗教から考える歴史と文化	キリスト教	
	6	三大宗教から考える歴史と文化	イスラム教	
	7	三大宗教から考える歴史と文化	イスラム教	
	8	三大宗教から考える歴史と文化	仏教	
	9	三大宗教から考える歴史と文化	仏教	
	10	中世ヨーロッパにおけるペスト大流行はヨーロッパをどう変えたか		
	11	国際貿易と植民地	消費生活の変化----①コーヒーと紅茶	
	12	国際貿易と植民地	消費生活の変化----②砂糖と奴隷制度	
	13	国際貿易と植民地	消費生活の変化----③ジャガイモとトマト	
	14	フランス革命と人権宣言 講義の補足		
	15	まとめと試験		
受講要件				
評価方法	期末試験60点、提出物20点、受講態度20点			
注意・要望事項	授業中は講義に集中してください。			
テキスト	コピーを配布			

科目名	生物学	担当教員名	櫻井宏紀
科目コード 11201	1年前期（選択）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	基礎分野（知識と技術の探求）	授業形態	講義
科目概要	いのちの科学（生命科学）を生物学の側面から学ぶ。主に動物を中心に、生命の特徴、分子の働き、遺伝の仕組み、生殖、生体調節、環境問題など、生命に関係する事柄を学び、生命維持のしくみを理解し、いのちの尊さを知る。		
授業計画	1	生命体の構造とはたらき	
	2	生体維持のエネルギー	
	3	生殖と発生	
	4	遺伝情報の伝達と発現のしくみ	
	5	個体の調節	
	6	免疫の仕組み	
	7	地球環境と生命	
	8	まとめと試験	
受講要件			
評価方法	テスト80%、授業態度（自己評価を含む）20%		
注意・要望事項	授業内容を、毎回自分なりにまとめておく。		
テキスト	「生物学」系統看護学講座 医学書院		
	期末試験によって評価する。		

				1-5
科目名	化学		担当教員名	佐藤和良
科目コード 11202	1年前期（選択）		単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	基礎分野（知識と技術の探求）		授業形態	講義
科目概要	自然科学を化学の側面から学ぶ。化学は物質の構造、特性、変化を扱う最も基本的な分野であることを理解する。化学の言葉で表現される生化学、栄養学、生理学、薬理学などの分野を真に理解するために、加えて、医薬品の性質や作用、医療材料の性質などを理解するためにも、化学の基礎的な法則と、関連する分野の化学専門用語を理解する重要性を学ぶ。			
	1	原子と分子（原子説，分子説，原子の構造）		
	2	原子と分子（元素，周期律，化学式と物質質量）		
	3	化学結合と化学反応		
授業計画	4	物質の三態と気体の性質		
	5	溶液とコロイド		
	6	酸, 塩基, 塩		
	7	酸化還元反応, 総復習		
	8	まとめと試験		
受講要件				
評価方法	テスト90%，受講態度(自己評価を含む) 10%			
注意・要望事項	医薬品等の性質を理解する上での基礎として，しっかり学んでほしい。			
テキスト	杉田良樹著「系統看護学講座 基礎分野 化学」医学書院			

				1-6
科目名	情報処理入門	担当教員名	石井成郎 伊東裕康	
科目コード 11301	1年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）	
科目区分	基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義・演習	
科目概要	看護研究ならびに医療のIT化や医療情報システムに適応できる情報処理の知識とスキルを学ぶ。具体的には、ITの基礎知識と医療の情報科学的認識、医療情報倫理、情報セキュリティ、IT化された医療に対する意思決定支援の事例などについて学習し、コンピュータを用いた文書作成・データ整理の方法を学ぶ。			
授業計画	1	ガイダンス パソコンの基本的な使い方		
	2	Wordを使った文書作成：基本的な使い方		
	3	Wordを使った文書作成：演習課題(1)		
	4	Wordを使った文書作成：演習課題(2)		
	5	PowerPointを使った資料作成：基本的な使い方		
	6	PowerPointを使った資料作成：演習課題(1)		
	7	PowerPointを使った資料作成：演習課題(2)		
	8	Excelを使ったデータ処理：基本的な使い方		
	9	Excelを使ったデータ処理：演習課題(1)		
	10	Excelを使ったデータ処理：演習課題(2)		
	11	期末課題(1)：Word・PowerPoint・Excelの応用課題(1)		
	12	期末課題(2)：Word・PowerPoint・Excelの応用課題(2)		
	13	期末課題(3)：Word・PowerPoint・Excelの応用課題(3)		
	14	期末課題(4)：医療とIT		
	15	期末課題(5)：情報とセキュリティ		
受講要件				
評価方法	演習課題 50点， 期末課題 40点， 毎回実施するタイピングテスト 10点			
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ保存のためのUSBメモリを毎回持ってくること。</li> <li>・タイピングに自信のない学生は各自で練習すること。</li> </ul>			
テキスト	診療情報管理Ⅲ 専門・診療情報管理編 日本病院会			

科目名	英語 I		担当教員名	Andrew D. McKernon 小澤淑子
科目コード 11302	1年前期（選択）		単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（関係性の展開）		授業形態	講義
科目概要	毎回の授業の目標を達成するための自律的学習を通し、他の教科にも通ずる学習法を習得する。クラスメイトとの意見交換を通して、他者の意見を尊重しつつ自己の思考を深める過程に習熟する。この過程で英語のタスクを応用することにより、英語運用能力の向上が期待できる。			
授業計画	1	Course Guidance, Knowing each other (pre-task)		
	2	Knowing each other (task cycle)		
	3	Knowing each other (recording, language focus)		
	4	Receptionist (pre-task) pp. 5-9		
	5	Receptionist (task cycle) pp. 5-9		
	6	Receptionist (task cycle) pp. 5-9		
	7	Receptionist (recording, language focus) pp. 5-9		
	8	Dental hygienist (pre-task) pp. 27-30		
	9	Dental hygienist (task cycle) pp. 27-30		
	10	Dental hygienist (task cycle) pp. 27-30		
	11	Dental hygienist (recording, language focus) pp. 27-30		
	12	Registered dietitian (pre-task) pp. 38-40		
	13	Registered dietitian (task cycle) pp. 38-40		
	14	Registered dietitian (task cycle) pp. 38-40		
	15	Registered dietitian (recording, language focus) pp. 38-40		
受講要件	特になし			
評価方法	Quiz (課題の成果):30%、Review (授業の振り返り):42%、Recording (会話のまとめ):28%			
注意・要望事項	最初は恥ずかしかったり、不安だったりするかもしれないが、英語で自分の考えを言おうと積極的に取り組むことで慣れていく。英語が苦手だと思う学生ほど予習に時間をかける必要がある。辞書は必携。			
テキスト	実践！メディカル英語 小澤淑子編 オーム社（英語 I-IV 共通）			

科目名	異文化と言語	担当教員名	林 愛華
科目コード 11308	1年前期（選択）	単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
科目概要	中国語を勉強するには、日本語の50音図に当たる57個の発音と、6つの基本文型を身に付けさえできれば、一言、二言、三言のように、正確できれいに中国語を話せるようになります。この発音と基本文型をマスターすることを目標とします。		
	発音ができた後、電子辞書などを借りて自分ひとりで勉強できることは言うまでもありません。文型に当てはめて言いたいことも表現できます。研究目的でない初級の中国語だから、楽しく勉強できると思います。		
授業計画	1	第1課 発音（単母音）	
	2	第2課 発音（複母音）	
	3	第3課 発音（子音）	
	4	第4課 発音（鼻母音）	
	5	第5課 挨拶言葉	
	6	第6課 迎接（1）	
	7	第7課 迎接（2）	
	8	第8課 歓迎会（1）	
	9	第9課 歓迎会（2）	
	10	第10課 打的（1）	
	11	第11課 打的（2）	
	12	第12課 住宿（1）	
	13	第13課 住宿（2）	
	14	第14課 総合復習	
	15	第15課 まとめと期末試験	
受講要件			
評価方法	期末試験によって評価する。		
注意・要望事項	発音とともに、日中両国の漢字の異同に気をつけること。		
テキスト	しゃべっていいとも中国語 中西君と一緒に中国へ行こう！		
	陳淑梅 劉光赤 朝日出版社		

科目名	人体の構造・機能 I		担当教員名	渡邊和子 御供泰治
科目コード 12101	1 年前期 (必修)		単位数 (時間数)	2 単位 (60時間)
科目区分	専門基礎分野(人間と社会の理解)		授業形態	講義
科目概要	<p>人体の構造・機能では、人体の構成とその生理学的機能の基本を習得し、生命の維持機構について学ぶ。人体の構造・機能 I では、主として、細胞と組織、皮膚と膜、骨格系、筋系、神経系、感覚器系、血液、内分泌系について学ぶ。これらの人体構造を巨視的およびマイクロレベルで学びあらゆる臓器・組織の構造と機能を総合的に理解する。</p>			
授業計画	1	人体:解剖学と生理学	16	骨格系-構造と機能 体肢・関節
	2	個体を形成するさまざまなレベル	17	筋系-骨格筋の機能
	3	生命の維持とホメオスタシス	18	筋系-格筋収縮機構
	4	ホメオスタシスの失調	19	筋系-構造と機能 体幹
	5	解剖学用語	20	筋系-構造と機能 四肢
	6	化学の基礎2	21	血液 成分と機能
	7	生体の化学組成	22	血液 造血機能
	8	体を構成する仕組み-細胞	23	血液 止血機構
	9	細胞生理学	24	心臓血管系 心臓の構造と機能 1
	10	細胞の複製と遺伝	25	心臓血管系 心臓の構造と機能 2
	11	体を構成する仕組み-組織	26	心臓血管系 血管の機能 1
	12	体を構成する仕組み-皮膚	27	心臓血管系 血管の機能 2
	13	体を構成する仕組み-膜	28	内分泌系 1
	14	骨格系-構造と機能 (総論)	29	内分泌系 2
	15	骨格系-構造と機能 体幹	30	内分泌系 3
受講要件				
評価方法	試 験			
注意・要望事項	<p>人体の構造と機能を理解することは、看護師としての必須条件の一つです。この基礎知識の上に臨床的な知識、技術を修得していくこととなります。基盤が不十分だと今後の勉学に支障を来します。したがって、毎回の授業の復習および予習を教科書、指定参考書を使ってしっかり実施してください。 図書館には解剖視聴覚教材 (DVD)「機能解剖マニュアルATLAS OF HUMAN ANATOMY」①～⑩などがありますから、大いに活用してください。</p>			
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学 (メディカ出版)          人体解剖カラーアトラス (南江堂)          目で見るとからだのメカニズム (医学書院)</p>			

				1-10
科目名	微生物学・免疫学		担当教員名	田中 香お里
科目コード 12202	1年前期（必修）		単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（知識と技術の探求）		授業形態	講義
科目概要	<p>微生物学・免疫学では、微生物特に病原微生物の特徴やその病原性および滅菌や消毒の方法、感染防御の方法や化学療法について学ぶ。</p> <p>人間と病原微生物および感染経路の関係で成り立つ感染症の経過、また、院内感染について理解を深める。更に、人体の防御機構としての免疫のしくみ、免疫の異常についての基礎的知識について学ぶよう講義をする。</p>			
授業計画	1	感染症とは 感染の機構		
	2	感染症の種類 病原微生物の種類と特徴（1）		
	3	病原微生物の種類と特徴（2）		
	4	免疫・生体防御機構（1）		
	5	免疫・生体防御機構（2）		
	6	免疫が関わる事象（1）		
	7	免疫が関わる事象（2）		
	8	感染症の予防・感染対策		
	9	感染症の治療		
	10	主要な病原細菌（1）		
	11	主要な病原細菌（2）		
	12	主要な病原ウイルス（1）		
	13	主要な病原ウイルス（2）		
	14	主要な病原真菌・原虫		
	15	総まとめ・テスト		
受講要件				
評価方法	筆記試験			
注意・要望事項				
テキスト	わかる!身につく!病原体・感染・免疫（南山堂）			

科目名	臨床心理学	担当教員名	吉本弥須子
科目コード 12302	1年前期（必修）	単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
科目概要	人間の発達・行動を理解し、良好な人間関係を深めるために臨床心理学を学ぶ。個人と環境とに調和的な関係を維持し、改善するための援助的方法などについて実践的に研究する臨床心理学の方法を理解する。主として、パーソナリティの形成とアセスメント、適応と適応異常、カウンセリングと心理療法、発達障害児の援助などについて実例を通して人間理解を深め、援助実践の基礎的技能の育成を学ぶ。		
授業計画	1	オリエンテーション 臨床心理学とは	
	2	自己理解と他者理解（1）グループエンカウンター実習	
	3	自己理解と他者理解（2）グループエンカウンター実習	
	4	臨床心理学の基礎理論（1）理論モデル	
	5	臨床心理学の基礎理論（2）技法モデル	
	6	臨床心理学の基礎理論（3）コミュニティーモデル	
	7	心理アセスメントの基本（1）観察・面接・質問紙	
	8	心理アセスメントの基本（2）投影法等	
	9	カウンセリングと心理療法（1）面接相談法	
	10	カウンセリングと心理療法（2）行動療法	
	11	カウンセリングと心理療法（3）描画療法	
	12	カウンセリングと心理療法（4）芸術療法	
	13	カウンセリングと心理療法（5）グループワーク	
	14	事例検討	
	15	まとめと試験	
受講要件			
評価方法	演習への参加状況20%、レポート20%、記述試験60%		
注意・要望事項	臨床心理学を学ぶ者にとっての大きな課題は「自己理解」「自己受容」です。演習を多く取り入れますが、自分のこころの成長のためにも、どの演習にも積極的に参加してください。		
テキスト	「図解雑学 臨床心理学」ナツメ社		

				1-12
科目名	医療概論		担当教員名	伊藤伸一 鈴木照
科目コード 12304	1年前期（必修）		単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	専門基礎分野（関係性の展開）		授業形態	講義
科目概要	健康と疾病の概念および国民健康づくりの概要を理解し、より健康生活のための医療者の役割を考える。また現代の医療の現状や課題について学ぶ。特に、生命の尊重と人間の尊厳を考えるとともに、遺伝子治療やインフォームドコンセント、がん告知、終末医療などが行われている場において医療者に求められる医療倫理観について学ぶ。			
授業計画	1	医療の歴史		
		1) 医療の歩みと医療観の変遷		
	2	2) 先端医療技術の成果と私たち		
		3) 在宅医療、在宅ケア		
	3	医の倫理		
		1) 「医」における「倫理」、倫理綱領		
	4	2) 死の受容、医療と宗教		
		3) QOL		
		4) インフォームドコンセント		
5	5) 診療情報の開示			
6	6) 救急医療と蘇生術			
7	医療関連法規			
8	総まとめ・テスト			
受講要件				
評価方法	テスト			
注意・要望事項				
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕総合医療論 (医学書院)			

				1-13
科目名	看護学概論	担当教員名	竹下美恵子	
科目コード 13101	1年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）	
科目区分	専門分野 I	授業形態	講義	
科目概要	看護学概論は、「専門職としての看護・看護学とは何か」を明らかにする看護学の入門となる科目である。看護とは何かを知るために、看護の概念、看護の歴史、看護に関する基本法規、看護理論の観点から探る。そして、看護の本質を考え、看護者としてのあり方を考察する。			
授業計画	1	本授業のオリエンテーション、看護の概念とは		
	2	看護の歴史の変遷		
	3	看護の歴史の変遷		
	4	看護の歴史の変遷		
	5	主要な看護モデルと理論		
	6	主要な看護モデルと理論		
	7	主要な看護モデルと理論		
	8	看護の概念：人間		
	9	看護の概念：環境		
	10	看護の概念：健康		
	11	看護の機能		
	12	看護の機能		
	13	看護倫理		
	14	看護倫理		
	15	看護倫理		
受講要件				
評価方法	筆記試験（80％）、課題および授業態度（20％）			
注意・要望事項	毎回の授業時間で「看護覚え書」読み合わせをする。本授業を通して看護とは何か自分なりの看護観を育てたい。			
テキスト	松木光子：基礎看護学；看護学概論、HIROKAWA			
	ヴィクター・スクレトコウィッチ編、助川尚子訳：ナイチンゲール看護覚書決定版、医学書院 ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます、小玉香津子訳：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会			

				1-14
科目名	基礎看護技術 I		担当教員名	竹下美恵子 佐久間佐織 小澤香奈恵 市川恭子
科目コード 13105	1 年前期 (必修)		単位数 (時間数)	2 単位 (60時間)
科目区分	専門分野 I		授業形態	講義・演習
科目概要	基礎看護技術 I は、看護実践の基礎となる主要な科目である。基礎看護技術 I では、主として看護技術を実践する上で基本となる人間関係の形成・安全・安楽を促す援助技術を学ぶ。			
授業計画	1	看護技術とは	16	ヘルスアセスメントの技術
	2	安全・安楽を守る技術	17	看護技術テスト
	3	ボディメカニクス	18	看護技術テスト
	4	ボディメカニクス	19	身体の安楽を促す技術
	5	人間関係を成立させるための技術	20	身体の安楽を促す技術
	6	人間関係を成立させるための技術	21	身体の安楽を促す技術
	7	感染予防の技術	22	身体の安楽を促す技術
	8	感染予防の技術	23	看護技術テスト
	9	感染予防の技術	24	看護技術テスト
	10	感染予防の技術	25	呼吸を整える技術
	11	ヘルスアセスメントの技術	26	呼吸を整える技術
	12	ヘルスアセスメントの技術	27	呼吸を整える技術
	13	ヘルスアセスメントの技術	28	呼吸を整える技術
	14	ヘルスアセスメントの技術	29	看護技術テスト
	15	ヘルスアセスメントの技術	30	看護技術テスト
受講要件				
評価方法	試験 (筆記・実技) 70%、課題・授業態度30%			
注意・要望事項	演習には必ず出席すること。やむを得ず欠席した場合は、その単元の担当者に連絡を取った上で各自で補習し、担当者に報告すること。未習のままでは単位を認定しない場合がある。			
テキスト	深井喜代子編：基礎看護技術 I、メヂカルフレンド社 深井喜代子編：基礎看護技術 II、メヂカルフレンド社 三上れつ、小松万喜子編：演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして第2版、ヌーヴェルヒロカワ			

				1-15
科目名	基礎看護技術Ⅱ		担当教員名	竹下美恵子 佐久間佐織 小澤香奈恵 市川恭子
科目コード 13106	1 年前期 (必修)		単位数 (時間数)	2 単位 (60時間)
科目区分	専門分野 I		授業形態	講義・演習
科目概要	基礎看護技術Ⅰと連続する科目であり、看護実践の基礎となる主要な科目である。基礎看護技術Ⅱでは主として日常生活の援助技術を学ぶ。対象の日常生活に注目し、基本的欲求を充足するために、安全・安楽を考慮した基礎看護技術を学ぶ。			
授業計画	1	快適な環境をつくる技術	16	身体の清潔の援助技術
	2	快適な環境をつくる技術	17	身体の清潔の援助技術
	3	快適な環境をつくる技術	18	身体の清潔の援助技術
	4	快適な環境をつくる技術	19	身体の清潔の援助技術
	5	活動・休息を援助する技術	20	身体の清潔の援助技術
	6	活動・休息を援助する技術	21	身体の清潔の援助技術
	7	活動・休息を援助する技術	22	身体の清潔の援助技術
	8	活動・休息を援助する技術	23	排泄の援助技術
	9	食事・栄養の援助技術	24	排泄の援助技術
	10	食事・栄養の援助技術	25	排泄の援助技術
	11	食事・栄養の援助技術	26	排泄の援助技術
	12	食事・栄養の援助技術	27	排泄の援助技術
	13	食事・栄養の援助技術	28	排泄の援助技術
	14	食事・栄養の援助技術	29	排泄の援助技術
	15	身体の清潔の援助技術	30	排泄の援助技術
受講要件				
評価方法	試験 (筆記・実技) 70%、課題・授業態度30%			
注意・要望事項	演習には必ず出席すること。やむを得ず欠席した場合は、その単元の担当者に連絡を取った上で各自で補習し、担当者に報告すること。未習のままでは単位を認定しない場合がある。			
テキスト及び参考書	* 深井喜代子編：新体系 看護全書第11巻 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社 * 深井喜代子編：新体系 看護全書第12巻 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社 * 三上れつ，小松万喜子編：演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして 第2版，ヌーヴェルヒロカリ (基礎看護技術Ⅰと同じ)			

				1-16	
科目名	基礎看護学実習 I	担当教員名	竹下美恵子 佐久間佐織 小澤香奈恵 市川恭子		
科目コード 13108	1年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（45時間）		
科目区分	専門分野 I	授業形態	実習		
科目概要	患者のおかれている入院施設ならびに生活環境を看護の視点で観察し、また、ケアを受けている人々に対する直接体験をとおして看護活動の実際を知り、看護への関心と理解を深め、看護学を学ぶ動機付けとする。				
授業計画	(実習期間)				
	平成23年7月19日（火）～平成23年7月29日（金）				
	(実習施設)				
	総合大雄会病院、大雄会第一病院、大雄会クリニック				
	(実習方法)				
	病棟実習における看護活動の見学、医療安全の講義・見学、外来実習を実施する。				
	(実習指導)				
	見学実習のため、基礎看護学教員4名で対応する。				
	受講要件	看護学概論、基礎看護技術 I・II の単位が習得見込みであること。			
	評価方法	実習記録、実習態度を総合して評価を行う。			
注意・要望事項	実習開始までに看護学概論・基礎看護技術の復習を行い、実習に臨むこと。				
テキスト					

				1-17
科目名	母性看護学概論	担当教員名	野田貴代	
科目コード 14131	1年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（15時間）	
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義	
科目概要	母性看護の概念と、健全な母性の発達を支援する看護の役割とを理解する。また母性に関わる社会の変化も合わせて教授し、母性看護の重要性を理解し、倫理的問題についても学ぶ。			
授業計画	1	母性看護の概念 1) 母性とは 2) 母性看護の対象 3) 母性看護の役割		
	2	現在の母性に関わる問題 1) 母体保護法 2) 出生前診断 3) 人工妊娠中絶 4) 生命倫理		
	3	5) 遺伝に関わる問題 妊娠に関わる基本的な知識		
	4	母性看護の対象を取り巻く環境ーリプロダクティブヘルス/ライツの視点からー 1) 世界 2) 日本		
	5	母性に関わる保健統計と母子保健施策		
	6	母性看護に関する組織と法律 母性看護の場と職種		
	7	女性のライフサイクルの特徴		
	8	全体のまとめ、試験		
受講要件				
評価方法	試験			
注意・要望事項	多くのことを「考えて」欲しいと思います。講義では皆さんに考える材料を提供します。			
テキスト	『系統看護学講座 母性看護学[1]母性看護学概論』医学書院 『系統看護学講座 母性看護学[2]母性看護学各論』医学書院			

科目名	精神看護学概論	担当教員名	出口睦雄
科目コード 14141	1年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義
科目概要	精神看護学の概念、精神医療、精神科看護の歴史や課題、看護の機能と役割について学ぶ。人間の心のしくみと発達、人間関係ダイナミックス、危機反応などの心の働きを理解し精神に障害を生じた人々の生活場面での自立を図る援助のあり方と地域社会における支援方法について学ぶ。		
	1	精神看護学の概念　こころの健康とは	
	2	患者処遇と精神保健福祉法の歴史的変遷	
	3	精神の機能と障害	
授業計画	4	ストレスと不適応	
	5	ストレスと不適応	
	6	看護師－患者関係の理解	
	7	精神科救急の概念	
	8	総まとめ・テスト	
受講要件			
評価方法	筆記試験		
注意・要望事項	テキストは毎回講義に持参して下さい。 履修規程をきちんと読んで臨むこと。		
テキスト	「精神看護学Ⅰ-精神保健学-」吉松和哉他編集（ヌーヴェルヒロカワ）		
	「精神看護学Ⅱ-精神臨床看護学-」川野雅資編集（ヌーヴェルヒロカワ）		

				1-19
科目名	現代社会と家族	担当教員名	佐々木政司	
科目コード 11104	1年後期（必修）	単位数（時間数）	2単位（30時間）	
科目区分	基礎分野（人間と社会の理解）	授業形態	講義	
科目概要	現代社会と家族のつながりを理解する。社会を形成している個人の意識から社会の成り立ちを考察しようとする社会学の主要な理論が、いかなる社会的な経験のもとで生み出されてきたかについて理解する。また、家族の健康を支援するための理論と方法について学び、家族をとりまく地域社会や行政の政策、地域のヘルスケアシステムなどに影響をうける社会構成要素も学ぶ。			
	1	<b>社会学とは何か</b> 社会学とはどんな学問か、社会学とは何か、医療・保健と社会学、社会学研究の専門分化、社会学の研究対象・方法などについて学ぶ。		
	2	<b>人間（個人）と社会</b> 個人と社会との関係、社会の中の人間、人間のなかの社会、人間の自己形成と生涯学習などについて学ぶ。		
	3	<b>社会的行動</b> 地位－役割関係を中心に、個人の社会的行動について病人役割や医療者－患者関係などを例に学ぶ。		
授業計画	4	<b>社会化</b> 社会的動物としての人間、社会化と人間形成、ソーシャライザーとソーシャライジー、再社会化などについて考える。		
	5	<b>ライフコースと社会構造</b> 近代社会の構造を基に、家族や職業などの社会的役割の取得、移行およびその経歴について学ぶ。		
	6	<b>家族と家庭</b> 家族とは何か、家庭とは何か、家族制度、保健・医療における家族などについて学ぶ。		
	7	<b>家族変動と家族</b> 家族形態の変化、家族の内部構造の変化、家族の機能、家族生活のあり方、ライフサイクル・ライフコースから見た家族生活について考える。		
	8	<b>核家族と専業主婦</b> 近代産業社会における家族規模・家族構成の変化によって誕生した核家族と専業主婦について学ぶ。		
	9	<b>ライフスタイルとしての家族</b> ライフサイクル・ライフコースの観点から、家族形態や家族の内部構造、家族の機能について考える。		
	10	<b>配偶者選択と結婚</b> 生殖家族の成立過程および結婚の社会的・制度的側面について学ぶ。		
	11	<b>近代家族と夫婦関係</b> 夫婦の役割関係・勢力関係を中心に、夫婦の個別化やDVなどの問題について学ぶ。		
	12	<b>ライフサイクルから見た親子関係</b> 家族内での親子の地位と役割、社会化について学び、社会化機能の弱体化の観点から青少年問題について考える。		
	13	<b>高齢者と家族</b> 高齢社会による家族構造・家族機能の変化から老親扶養と家族関係について学び、高齢者介護や看取り、病院死について考える。		
	14	<b>地域社会と家族</b> 家族形態の変化に伴い外部化された家族機能の担い手としての地域社会やコミュニティについて学ぶ。		
		15	まとめ・テスト	
受講要件				
評価方法	試験の成績により評定			
注意・要望事項	資料を配布するが、ノートテイクを行うこと。			
テキスト	指定しない			

科目名	暮らしと経済	担当教員名	木村隆之																														
科目コード 11105	1年後期（選択）	単位数（時間数）	2単位（30時間）																														
科目区分	基礎分野（人間と社会の理解）	授業形態	講義																														
科目概要	<p>人の暮らしと経済の側面から現代社会を理解する。</p> <p>社会においては、ミクロからマクロにいたるまでさまざまな諸問題が生まれている。幼児・児童虐待、家庭崩壊、多重債務、ニート・フリーター、過労死、福祉の後退などである。これらの諸問題の原因と解決策を考えるためには、暮らしと経済の基本的なしくみをみつめることが大切である。現代社会の諸問題を解決し、より豊かな社会を実現することは、看護や医療、そして社会保障の将来とも深くかかわっている。</p>																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>経済と経済学</td></tr> <tr><td>2</td><td>暮らしと経済、経済問題</td></tr> <tr><td>3</td><td>暮らしと経済問題の諸相</td></tr> <tr><td>4</td><td>暮らしと経済を読み解くためのキーワード（1）経済成長・GDP</td></tr> <tr><td>5</td><td>暮らしと経済を読み解くためのキーワード（2）インフレ・デフレ・バブル</td></tr> <tr><td>6</td><td>暮らしと経済を読み解くためのキーワード（3）円高・産業空洞化・リストラ</td></tr> <tr><td>7</td><td>日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（1）高度経済成長の時代</td></tr> <tr><td>8</td><td>日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（2）「経済大国化」の時代</td></tr> <tr><td>9</td><td>日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（3）長期経済停滞の時代</td></tr> <tr><td>10</td><td>ゆとりある人間らしい働き方をめざして一長時間・過密労働と暮らし</td></tr> <tr><td>11</td><td>余裕ある人間らしい暮らしをめざして一賃金停滞と賃金格差の拡大と暮らし</td></tr> <tr><td>12</td><td>働きがいのある仕事を求めて一リストラ・不安定雇用の拡大と暮らし</td></tr> <tr><td>13</td><td>家族の再建—暮らしの基盤の不安定化（1）</td></tr> <tr><td>14</td><td>社会保障・社会福祉の再建—暮らしの基盤の不安定化（2）</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめ—暮らしと経済のゆくえ</td></tr> </table>			1	経済と経済学	2	暮らしと経済、経済問題	3	暮らしと経済問題の諸相	4	暮らしと経済を読み解くためのキーワード（1）経済成長・GDP	5	暮らしと経済を読み解くためのキーワード（2）インフレ・デフレ・バブル	6	暮らしと経済を読み解くためのキーワード（3）円高・産業空洞化・リストラ	7	日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（1）高度経済成長の時代	8	日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（2）「経済大国化」の時代	9	日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（3）長期経済停滞の時代	10	ゆとりある人間らしい働き方をめざして一長時間・過密労働と暮らし	11	余裕ある人間らしい暮らしをめざして一賃金停滞と賃金格差の拡大と暮らし	12	働きがいのある仕事を求めて一リストラ・不安定雇用の拡大と暮らし	13	家族の再建—暮らしの基盤の不安定化（1）	14	社会保障・社会福祉の再建—暮らしの基盤の不安定化（2）	15	まとめ—暮らしと経済のゆくえ
1	経済と経済学																																
2	暮らしと経済、経済問題																																
3	暮らしと経済問題の諸相																																
4	暮らしと経済を読み解くためのキーワード（1）経済成長・GDP																																
5	暮らしと経済を読み解くためのキーワード（2）インフレ・デフレ・バブル																																
6	暮らしと経済を読み解くためのキーワード（3）円高・産業空洞化・リストラ																																
7	日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（1）高度経済成長の時代																																
8	日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（2）「経済大国化」の時代																																
9	日本経済の歩みと暮らしの変化、経済問題（3）長期経済停滞の時代																																
10	ゆとりある人間らしい働き方をめざして一長時間・過密労働と暮らし																																
11	余裕ある人間らしい暮らしをめざして一賃金停滞と賃金格差の拡大と暮らし																																
12	働きがいのある仕事を求めて一リストラ・不安定雇用の拡大と暮らし																																
13	家族の再建—暮らしの基盤の不安定化（1）																																
14	社会保障・社会福祉の再建—暮らしの基盤の不安定化（2）																																
15	まとめ—暮らしと経済のゆくえ																																
受講要件																																	
評価方法	受講態度（40%）、及びまとめに合わせて実施する論述試験（60%）の結果によって評価する。																																
注意・要望事項	講義を手がかりにして、自分の暮らしと経済の関わりを、自ら考えてみる大切である。漫然と聞いて、一部を覚えるだけの受講態度は望ましくない。																																
テキスト	<p>テキストは指定しない。</p> <p>講義の概要と関連資料をプリントにより配布する。</p> <p>参考書は、講義の中で紹介する。</p>																																

				1-21
科目名	物理学		担当教員名	佐藤和良
科目コード 11203	1年後期（選択）		単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	基礎分野（知識と技術の探求）		授業形態	講義
科目概要	自然科学の基礎的知識として物理学を学ぶ。日常生活における物理的現象について学び、更に、その応用面について学ぶ。すなわち、身近な現象から原理を理解し、それらの基礎原理に基づく応用例について理解する。特に、医療の場において必要な最小限度の物理学の法則や原理について理解できるように基礎的な知識を修得し、医療への応用例を理解する。			
授業計画	1	第1章 力（重力と重心，位置エネルギーとエネルギー保存の法則，てこと滑車，摩擦，浮力）		
	2	第2章 圧力（点滴静脈内注射，血圧計，吸引器，人工心臓，人工肺と人工透析器）		
	3	第3章 熱（身体の冷却，衣服や寝具による保温，アルコール清拭，人体の熱産生，冷蔵庫の原理）		
	4	第4章 電気（電気機器の安全性，電気メス，心電図，電子体温計，テレメーター）		
	5	第5章 光と放射線（明るさの測定，光と色，レンズ，内視鏡，パルスオキシメーター，レーザーメス，X線検査，放射性同位体）		
	6	第6章 音と振動（聴診器，振動の人体への影響，音波と超音波，超音波ドップラー法，対外衝撃波結石破砕機，マイクロホンとスピーカー）		
	7	物理量と単位について，総復習		
	8	まとめと試験		
受講要件				
評価方法	テスト90%，受講態度（自己評価を含む）10%			
注意・要望事項	医療機器の取り扱いを理解する上での基礎として，しっかり学んで欲しい。			
テキスト	青木和夫編集「系統看護学講座 基礎分野 物理学」医学書院			

科目名	英語Ⅱ	担当教員名	Andrew D. McKernon 小澤淑子
科目コード 11303	1年後期（選択）	単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
	英語Ⅰの学習方法を基に、さらに様々な医療を支える職業についての知識を深め、それぞれの職域の健康問題について英語で意見の遣り取りをし、相手の意見を尊重しつつ自分の意見を効果的に相手に伝える態度を養う。		
授業計画	1	Course Guidance, STD (pre-task) pp. 127-128	
	2	STD (task cycle)	
	3	STD (recording, language focus)	
	4	Midwife (pre-task) pp.129-130	
	5	Midwife (task cycle)	
	6	Midwife (task cycle)	
	7	Midwife (recording, language focus)	
	8	Metabolic syndrome (pre-task) pp. 108-109	
	9	Metabolic syndrome (task cycle)	
	10	Metabolic syndrome (task cycle)	
	11	Metabolic syndrome (recording, language focus)	
	12	Rapport (pre-task) pp. 115-117	
	13	Rapport (task cycle)	
	14	Rapport (task cycle)	
	15	Rapport (recording, language focus)	
受講要件	特になし		
評価方法	Quiz (課題の成果):30%、Review (授業の振り返り):42%、Recording (会話のまとめ):28%		
注意・要望事項	相手に伝えたい内容をもっていないと、英語で話そうとしても表面的なものから発展しない。英語Ⅱで扱うトピックについて自分の考えを深め、それを相手に伝えようとし、また、相手の考えを理解しようと努力してほしい。		
テキスト	実践！メディカル英語 小澤淑子編 オーム社（英語Ⅰ-Ⅳ 共通）		

科目名	人体の構造・機能Ⅱ		担当教員名	渡邊和子 御供泰治
科目コード 12102	1年後期（必修）		単位数（時間数）	2単位（60時間）
科目区分	専門基礎分野(人間と社会の理解)		授業形態	講義
科目概要	<p>人体の構造・機能Ⅰと連続する科目であり、ⅠとⅡはともに人体を統合的、有機的に理解しヒトを統合的に把握するとともに病態理解の基礎とする。人体の構造・機能Ⅱでは、主として、生体防御機構、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、人体の発生、内分泌系について学ぶ。これらの人体構造を巨視的およびミクロレベルで学びあらゆる臓器・組織の構造と機能を総合的に理解する。</p>			
授業計画	1	神経系のしくみ（総論）	16	泌尿器系 腎臓の構造と機能1
	2	中枢神経系-構造と情報伝達機構	17	泌尿器系 腎臓の構造と機能2
	3	中枢神経系-機能 運動制御	18	泌尿器系 腎機能と血圧調整
	4	中枢神経系-機能 高次脳機能1	19	泌尿器系 水分と電解質・体液調節
	5	中枢神経系-機能 高次脳機能2	20	泌尿器系 酸塩基平衡
	6	末梢神経系-構造と機能	21	消化器系の構造と機能
	7	自律神経系の構造と機能	22	消化器系 食欲・咀嚼・嚥下
	8	感覚総論	23	消化器系 消化と吸収1
	9	特殊感覚-いろいろな感覚の情報処理1	24	消化器系 消化と吸収2
	10	特殊感覚-いろいろな感覚の情報処理2	25	消化器系 栄養と代謝
	11	呼吸器系 肺の構造と機能1	26	体温調節
	12	呼吸器系 肺の構造と機能2	27	生殖器系 女性
	13	呼吸器系 呼吸の生理1	28	生殖器系 男性
	14	呼吸器系 呼吸の生理2	29	生殖器系 受精と遺伝
	15	呼吸器系 病態	30	生殖器系 生殖機能と老化
受講要件				
評価方法	試験			
注意・要望事項	<p>基本的なことは人体の構造・機能Ⅰと同じです。基礎の知識をしっかりと勉強できるのは1年生の間です。学年が進むと実習が増え、なかなか基礎の勉強をする時間がなくなります。しかし実際には基礎知識がないと理解できない問題にぶつかります。今のうちにしっかりと基礎的知識を自分のものにできるように頑張ってください。</p>			
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能 解剖生理学（メディカ出版）          人体解剖カラーアトラス（南江堂）          目で見るからだのメカニズム（医学書院）</p>			<p>前期 購入済</p>

				1-24
科目名	栄養と代謝		担当教員名	中村正道
科目コード 12201	1年後期（必修）		単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（知識と技術の探求）		授業形態	講義
科目概要	<p>栄養と代謝において、その根幹となる学問は生化学である。医学分野のいかなる職種においても、生化学的知識は極めて重要かつ基本である。代謝とは生体内における化学反応のことであるが、人間が生きていくために、我々の体内ではどんな化学反応が起こっているのだろうか。そして、栄養素の摂取はなぜ必要なのか。これらを総括的に学ぶ。</p>			
授業計画	1	生化学の基礎知識および細胞の構造と機能		
	2	糖質代謝①：糖質の構造と種類および特徴		
	3	糖質代謝②：解糖系、糖新生およびペントースリン酸経路		
	4	エネルギー産体系：TCA回路、電子伝達系とATP		
	5	脂質代謝①：脂質の構造と種類および特徴		
	6	脂質代謝②： $\beta$ 酸化、コレステロールの生合成、およびケトン体		
	7	タンパク質代謝①：タンパク質の構造とアミノ酸の代謝		
	8	タンパク質代謝②：尿素サイクル		
	9	水、無機質および血液		
	10	ビタミンと補酵素		
	11	ホルモン：種類と作用機序		
	12	酵素：生命活動と酵素		
	13	核酸と遺伝①：核酸の合成と分解		
	14	核酸と遺伝②：DNAとRNA		
	15	栄養学と生化学総括 試験		
受講要件				
評価方法	筆記試験			
注意・要望事項	教科書に書いてないことを板書します。従って、休むと試験に対応できません。「必ず出席」が原点です。			
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[2]生化学			

			1-25
科目名	疾病・病態論 I (内科系1)	担当教員名	御供泰治
科目コード 12204	1年後期 (必修)	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
科目区分	専門基礎分野 (知識と技術の探求)	授業形態	講義
科目概要	<p>疾病・病態の理解は、看護実践に欠かすことができないものであり、この「疾病・病態論 I」では、内科的疾患のうち、循環器系・内分泌系・代謝系・血液系を理解し、看護学の基礎的知識となるよう講義する。</p>		
授業計画	1	狭心症 (p. 24)	
	2	急性心筋梗塞 (p. 27)	
	3	心臓弁膜症 (p. 31)	
	4	心不全 (p. 36)	
	5	高血圧症・低血圧症 (プリント)	
	6	下垂体 (プリント)	
	7	バセドウ病 (p. 196)	
	8	クッシング症候群 (p. 207)	
	9	糖尿病 (1) (p. 146)	
	10	糖尿病 (2) (p. 146)	
	11	造血 (プリント)	
	12	貧血 (プリント)	
	13	白血病 (p. 5)	
	14	血友病 (p. 2)	
	15	総まとめ・テスト	
受講要件			
評価方法	学期末の最終講義日に筆記試験		
注意・要望事項	人体の構造・機能 I をよく学習しておくこと。		
テキスト	ナーシンググラフィカEX2「疾病と治療」 (メディカ出版)		

科目名	疾病・病態論Ⅴ（産科・婦人科）	担当教員名	嶋津光真 岡 京子	
科目コード 12208	1年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）	
科目区分	専門基礎分野（知識と技術の探求）	授業形態	講義	
科目概要	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の生理と病態、正常時と異常時の処置などを学ぶ。代表的な婦人科疾患の病態、診断、治療、予後について学ぶ。			
授業計画	1	セクシュアリティ（分化と発達）	}	
	2	性器の形態		
	3	内性器の形態		岡
	4	内性器の機能		
	5	婦人科疾患		
	6	不妊症	}	
	7	正常妊娠		
	8	母体ならびに胎児の生理		
	9	正常分娩－その1		
	10	正常分娩－その2		嶋津
	11	産褥、新生児		
	12	ハイリスク妊娠		
	13	妊娠期の合併症		
	14	異常妊娠・異常分娩		
	15	総括・試験		
受講要件				
評価方法	試験（嶋津非常勤講師70点、岡非常勤講師30点）			
注意・要望事項	携帯電話の使用禁止（スマートフォンも含む）			
テキスト	『系統看護学講座 母性看護学[1]母性看護学概論』医学書院（前期購入済み）			
	『系統看護学講座 母性看護学[2]母性看護学各論』医学書院（前期購入済み）			

				1-27
科目名	心の科学		担当教員名	石井成郎 伊東裕康
科目コード 12301	1年後期（必修）		単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（関係性の展開）		授業形態	講義
科目概要	人間の心のしくみや働き方に関する基本的な知識を学ぶ。具体的には、社会心理学（人間関係）および発達心理学（発達段階）を中心に、看護実践を行う上で必要となる心理学各領域の諸理論を学ぶ。			
授業計画	1	社会(1)：はじめてのコミュニケーション（自己開示）		
	2	社会(2)：コミュニケーションの距離感（対人距離）		
	3	社会(3)：人が恋する瞬間（対人魅力）		
	4	社会(4)：ものは言いよう（説得・葛藤）		
	5	社会(5)：使いやすい，わかりやすい（アフォーダンス）		
	6	社会(6)：やる気を出すためのコツ（動機づけ）		
	7	社会(7)：プロになるためには（熟達化）		
	8	社会(8)：レポート作成		
	9	発達(1)：胎児期・新生児期		
	10	発達(2)：乳児期・幼児期（運動機能の発達）		
	11	発達(3)：乳児期・幼児期（認知機能の発達）		
	12	発達(4)：乳児期・幼児期（情動・社会性の発達）		
	13	発達(5)：学童期～老年期		
	14	発達(6)：演習課題①		
	15	発達(7)：演習課題②		
受講要件				
評価方法	各回の講義ノート 50点，レポート 25点，演習課題 25点			
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会心理学の回で学んだことを，日常生活や看護場面で活用してください。</li> <li>・発達心理学の回で学ぶ内容は，小児看護学の授業内容に関連していますので，必ず復習するようにしてください。</li> </ul>			
テキスト	なし			

				1-28
科目名	医療管理総論		担当教員名	藤原奈佳子
科目コード 12305	1年後期（必修）		単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	専門基礎分野（関係性の展開）		授業形態	講義
科目概要	医療の成立における社会資源（医療職種である人的資源、医療施設や機器、薬剤などの物的資源、医療関連法規や医療保険制度などの財的資源）の必要性を理解するとともに、医療の需要者と供給者のそれぞれの立場に立脚して医療制度を学ぶ。			
授業計画	1	愛知県の医療計画、医療圏 診療における情報の管理		
	2	医療資源（医療施設、医療従事者、財源、診療記録などの情報資源など）		
	3	医療制度（日本の医療制度の成り立ちと特徴など）		
	4	医療制度（諸外国の医療制度など）		
	5	国民医療費の現状と将来		
	6	医療の需要と供給、地域医療		
	7	医療関連法規		
	8	まとめと試験		
受講要件				
評価方法	授業の参加態度(20%)、筆記試験(80%)			
注意・要望事項	医療はどのようにして成り立っているのか、日頃から興味をもち、理解を深める努力を継続してゆくことを期待する。			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔1〕総合医療論（医学書院） 診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅲ（主に1章）（専門・診療情報管理編、日本病院会） ※前期購入済			

科目名	医療管理各論 I		担当教員名	佐藤信司
科目コード 12306	1年後期（必修）		単位数（時間数）	1 単位（15時間）
科目区分	専門基礎分野（関係性の展開）		授業形態	講義
科目概要	医療の提供に関連する基礎的知識を養う。具体的には、病院の管理体制、医療制度の概略、関係法令、診療関連部署の理解、看護記録を含む診療情報の管理、保険制度、診療報酬制度の概略などを学ぶ。			
授業計画	1	医療の提供体制（概観）		
	2	病院の経営管理		
	3	医療管理 ①		
	4	医療管理 ②		
	5	診療録と診療情報		
	6	保険診療		
	7	診療報酬制度、その他		
	8	総まとめ、テスト		
受講要件				
評価方法	筆記試験			
注意・要望事項	「愛知きわみ看護短期大学履修規程」に従う			
テキスト	診療情報管理士テキスト 診療情報管理Ⅲ（専門・診療情報管理編） 第4版（改定されれば最新版） （社団法人 日本病院会） ※前期購入済  のうち主に第2章			

科目名	看護過程	担当教員名	竹下美恵子
科目コード 13102	1年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門分野 I	授業形態	講義・演習
科目概要	看護の実践に重要な対象の情報を系統的にアセスメントし、科学的な根拠に基づいた思考過程を学ぶ。看護過程の各要素を学び、アセスメント、問題点の抽出、計画立案、実践、評価について事例を通して理解する。		
授業計画	1	本授業のガイダンス、看護過程とは	
	2	情報収集のための看護の視点	
	3	アセスメントとは	
	4	アセスメントとは	
	5	アセスメントとは	
	6	全体像の把握	
	7	看護上の問題の明確化	
	8	看護計画立案	
	9	評価とは	
	10	看護過程演習	
	11	看護過程演習	
	12	看護過程演習	
	13	看護過程演習	
	14	看護過程演習	
	15	看護過程演習のまとめ、試験	
受講要件			
評価方法	筆記試験（80％）、課題・授業態度（20％）		
注意・要望事項	看護実践の根拠となる思考過程を講義や演習を通して学ぶ。演習は基礎看護学実習Ⅱの準備となる内容なので主体的に参加すること。		
テキスト	斎藤悦子監修；看護過程学習ガイド思考プロセスからのアプローチ、学研 松木光子；基礎看護学；看護学概論、スーヴェルヒロカワ（前期購入済） 高木永子；看護過程に沿った対症看護、学研 阿部俊子；改訂版病態関連図が書ける観察・アセスメントガイド、照林社		

科目名	チーム医療論	担当教員名	竹下美恵子
科目コード 13103	1年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	専門分野 I	授業形態	講義
科目概要	患者を中心とした質の高い医療の提供を目標に、チーム医療の構成員として積極的に医療に参画することができるようになるために、医療の流れ、チーム構成員の役割・連携などの基礎知識を習得することをねらいとしている。		
授業計画	1	チーム医療の起源と必要性	
	2	様々な医療チーム	
	3	各専門職種 of 役割、機能	
	4	各専門職種 of 役割、機能	
	5	各専門職種 of 役割、機能	
	6	チーム医療にいかすリーダーシップのあり方	
	7	看護組織のあり方とチーム医療	
	8	チーム医療における課題、まとめ、試験	
受講要件			
評価方法	筆記試験（80%）、課題・授業態度（20%）		
注意・要望事項	チーム医療の必要性や意義を理解し、チームワークがどれだけ医療の質の向上、安全性、患者のQOLの向上に大切かを認識して欲しい。		
テキスト	松木光子：看護学概論、HIROKAWA（前期購入済）		

科目名	基礎看護技術Ⅲ		担当教員名	竹下美恵子 佐久間佐織 小澤香奈恵 市川恭子
科目コード 13107	1年後期（必修）		単位数（時間数）	2単位（60時間）
科目区分	専門分野Ⅰ		授業形態	講義・演習
科目概要	基礎看護技術Ⅲは前半では診療の補助技術を学ぶ。医療における安全を最優先に考える態度を養う。後半では、看護学実習に向けて対象の個別性や、科学的根拠に基づいて看護技術を展開できる能力を学ぶ			
授業計画	1	検査時の援助技術	16	与薬の援助技術
	2	検査時の援助技術	17	治療・処置の援助技術
	3	検査時の援助技術	18	治療・処置の援助技術
	4	検査時の援助技術	19	看護におけるカンファレンス
	5	検査時の援助技術	20	様々な状況にある対象への援助技術
	6	検査時の援助技術	21	様々な状況にある対象への援助技術
	7	与薬の援助技術	22	技術テスト
	8	与薬の援助技術	23	技術テスト
	9	与薬の援助技術	24	技術テスト
	10	与薬の援助技術	25	技術テスト
	11	与薬の援助技術	26	技術テスト
	12	与薬の援助技術	27	技術テスト
	13	与薬の援助技術	28	技術テスト
	14	与薬の援助技術	29	技術テスト
	15	与薬の援助技術	30	テスト・まとめ
受講要件				
評価方法	試験（筆記・実技）70%、課題・授業態度30%			
注意・要望事項	演習には必ず出席すること。やむを得ず欠席した場合は、その単元の担当者に連絡を取った上で各自で補習し、担当者に報告すること。未習のままでは単位を認定しない場合がある。			
テキスト及び参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 深井喜代子編：新体系 看護全書第11巻 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，メヂカルフレンド社</li> <li>* 深井喜代子編：新体系 看護全書第12巻 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，メヂカルフレンド社</li> <li>* 三上れつ、小松万喜子編：演習・実習に役立つ基礎看護技術 根拠に基づいた実践をめざして 第2版，ヌーヴェルビロカワ（以上3冊前期購入済）</li> <li>* 神田清子・大西和子編集：検查看護技術，ヌーヴェルビロカワ</li> </ul>			

科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当教員名	竹下美恵子 佐久間佐織 小澤香奈恵 市川恭子 牧田和美 三宅香織 都竹友季子 川合奈緒美 深谷由美
科目コード 13109	1年後期（必修）	単位数(時間数)	2単位（90時間）
科目区分	専門分野Ⅰ	授業形態	実習
科目概要	医療施設における健康上の問題を持つ対象と直接かかわり援助的人間関係を築くとともに、対象を理解し、日常生活行動の援助を中心とした看護実践の基礎的能力を修得する。		
	<p>(実習期間)</p> <p>前半グループ：平成24年1月16日（月）～平成24年1月27日（金）</p> <p>後半グループ：平成24年1月30日（月）～平成24年2月10日（木）</p>		
	<p>(実習施設)</p> <p>総合大雄会病院、大雄会第一病院</p>		
	<p>(実習方法)</p> <p>1. 受持ち患者1名を担当し、アセスメントを行い看護計画を立案する。</p> <p>2. 教員・実習指導者の指導のもとで、看護計画に基づき日常生活行動の援助を行い、援助的人間関係を築く。</p>		
	<p>(実習指導)</p> <p>各病棟に教員、実習指導者を配置し、両者が役割を分担し指導に当る。</p>		
受講要件	基礎看護学実習Ⅰの単位を習得し、基礎看護技術Ⅲ、看護過程の単位を習得見込みであること。		
評価方法	実習記録、実習態度を総合して評価する。		
注意・要望事項	実習開始までに基礎看護技術の自主練習・事前学習を十分に行い実習に臨むこと。		
テキスト			

科目名	成人看護学概論	担当教員名	大屋演子
科目コード 14101	1年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義
科目概要	ライフサイクルにおける成人期の位置づけを理解し、成人期の人々の生活の特徴と発達課題および望ましい成長・発達・適応を促す看護のはたらきや役割を学ぶ。更に、成人期にみられる健康障害の援助方法や生活習慣に関連する健康障害の概要と予防について学ぶ。		
授業計画	1 第1部 成人期にある人の理解—成人であること 2 成長発達の特徴 3 身体機能の特徴と看護 4 成人の生活を理解する視点と方法、健康観の多様性と看護 5 学習の特徴と看護 6 第2部 成人期にみられる健康障害、生活習慣に関連する健康障害 7 職業に関連する健康障害 8 生活ストレスに関連する健康障害 9 セクシャリティーに関連する健康障害 10 余暇活動に伴う健康障害、更年期にみられる健康障害 11 第3部 成人への看護に有用な概念、病みの軌跡、セルフケア 12 ストレス 13 危機 14 適応 15 自己効力、ヘルスプロモーション 16 テスト		
受講要件			
評価方法	1. テスト・課題の作成 90点 2. 授業態度 10点		
注意・要望事項	1. 授業中の携帯電話の使用は禁止する。 2. 授業中の入室・退室は原則として前のドアとする。		
テキスト	1) 安酸史子：ナーシンググラフィカ 22 成人看護学概論，メディカ出版. 2) 厚生統計協会：国民衛生の動向、2011. 3) 適宜資料を配布する		

科目名	高齢者看護学概論	担当教員名	石田弘子 牧田和美
科目コード 14111	1年後期(必修)	単位数(時間数)	1単位(15時間)
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義・演習
科目概要	<p>ライフサイクルにおける高齢期を理解し、高齢期にある人々を理解するために、高齢者疑似体験を実施する。また、身体的・精神的・社会的特徴を学ぶ。          高齢期にある人々の生活(生命)の質を維持、向上させる上で必要となるさまざまな施策や制度の変遷を理解すると同時に、その具体的な活用について学ぶ。</p>		
授業計画	1	高齢期の理解、高齢社会の理解、加齢に伴う変化	
	2	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	1
	3	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	2  まとめ
	4	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	3
	5	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	4  まとめ
	6	高齢者看護援助の基本、高齢者を介護する家族の支援	
	7	高齢社会における社会保障の動き、高齢者看護における倫理的課題	
	8	まとめ、試験	
受講要件			
評価方法	受講態度(20%)、課題レポート(30%)、筆記試験(50%)		
注意・要望事項	自分の身近にいる高齢者と積極的に接してみること。そして、高齢者から多くを学ぶこと。高齢者に関する新聞やテレビなどの報道に関心を持つこと。		
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学		医学書院

科目名	小児看護学概論	担当教員名	柴 邦代 三宅香織																											
科目コード 14121	1年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）																											
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義																											
科目概要	<p>人生の出発点である小児期の特徴および小児の成長・発達や家族の評価に関わる理論について講義し、健全育成を支援する小児看護の特徴について学ぶ。</p> <p>また、小児を取り巻く社会の変化を踏まえた小児と家族の最善の利益にかなう小児看護のあり方について考察する。</p>																													
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>ガイダンス &amp; 小児看護とは</td></tr> <tr><td>2</td><td>小児と家族を取り巻く社会の変化と小児看護の課題</td></tr> <tr><td>3</td><td>小児の健康増進のための政策・社会制度・法律</td></tr> <tr><td>4</td><td>子どもの権利と小児看護における権利擁護</td></tr> <tr><td>5</td><td>子どもを取り巻く環境と対策</td></tr> <tr><td>6</td><td>小児各期の成長・発達の特徴と看護 ①乳児期</td></tr> <tr><td>7</td><td>小児各期の成長・発達の特徴と看護 ②幼児期</td></tr> <tr><td>8</td><td>小児各期の成長・発達の特徴と看護 ③学童期</td></tr> <tr><td>9</td><td>小児各期の成長・発達の特徴と看護 ④学童春期</td></tr> <tr><td>10</td><td>まとめ / テスト</td></tr> <tr><td>11</td><td rowspan="4">1日保育体験（基礎看護学実習Ⅱの空き日程で実施）</td></tr> <tr><td>12</td></tr> <tr><td>13</td></tr> <tr><td>14</td></tr> <tr><td>15</td><td>保育体験での学びの共有</td></tr> </table>			1	ガイダンス & 小児看護とは	2	小児と家族を取り巻く社会の変化と小児看護の課題	3	小児の健康増進のための政策・社会制度・法律	4	子どもの権利と小児看護における権利擁護	5	子どもを取り巻く環境と対策	6	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ①乳児期	7	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ②幼児期	8	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ③学童期	9	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ④学童春期	10	まとめ / テスト	11	1日保育体験（基礎看護学実習Ⅱの空き日程で実施）	12	13	14	15	保育体験での学びの共有
1	ガイダンス & 小児看護とは																													
2	小児と家族を取り巻く社会の変化と小児看護の課題																													
3	小児の健康増進のための政策・社会制度・法律																													
4	子どもの権利と小児看護における権利擁護																													
5	子どもを取り巻く環境と対策																													
6	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ①乳児期																													
7	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ②幼児期																													
8	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ③学童期																													
9	小児各期の成長・発達の特徴と看護 ④学童春期																													
10	まとめ / テスト																													
11	1日保育体験（基礎看護学実習Ⅱの空き日程で実施）																													
12																														
13																														
14																														
15	保育体験での学びの共有																													
受講要件																														
評価方法	筆記試験 60% レポート 40%																													
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回のガイダンスに出席しないとその後の学習に支障をきたすので、必ず出席してください。</li> <li>・小児と接する機会を自ら求め、小児や家族の行動を観察したり、新聞記事やテレビ番組等で紹介される小児関連情報に関心をもつようにしてください。</li> <li>・欠席や遅刻をできる限りしないようにしてください。やむを得ず欠席した場合は、すみやかに欠席届を提出し、資料などを研究室まで受け取りにくること。</li> <li>・課題の提出は、最終期限までに連絡なく提出されない場合、原則として単位認定対象者から除外します。</li> <li>・1日保育体験は補習が難しいため、必ず参加するようにしてください。</li> </ul>																													
テキスト	<p>①系統看護学講座 小児看護学1「小児看護学概論 小児臨床看護総論」医学書院</p> <p>②ナーシング・グラフィカ 小児看護学「小児の発達と看護」メディカ出版</p>																													

授業科目・単位数 (第7期生)											
	授 業 科 目	科目 コード	単位数		時間	1年		2年		3年	
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	人間と社会の理解	スポーツ科学	11101	1		15	15				
		保健体育実技	11102	1		45	45				
		社会福祉論*	11103	2		30			30		
		現代社会と家族	11104	2		30		30			
		暮らしと経済	11105		2	30		30			
		歴史と文化	11106		2	30	30				
						(2)					
	知識と技術の探求	生物学	11201		1	15	15				
		化学	11202		1	15	15				
		物理学	11203		1	15		15			
		数と統計*	11204		1	15			15		
						(2)					
	関係性の展開	情報処理入門*	11301	1		30	30				
		英語 I	11302		2	30	30				
		英語 II	11303		2	30		30			
		英語 III	11304		2	30			30		
		英語 IV	11305		2	30			30		
		英語 V*	11306		2	30				30	
		英語 VI	11307		2	30					30
		異文化と言語	11308		2	30	30				
					(6)						
	基礎分野小計			7	22	480	210	105	75	60	30
(選択科目必修単位)				(10)	(150)						
専門基礎分野	人間と社会の理解	人体の構造・機能 I *	12101	2		60	60				
		人体の構造・機能 II *	12102	2		60		60			
	知識と技術の探求	栄養と代謝	12201	1		30		30			
		微生物学・免疫学*	12202	1		30	30				
		臨床薬理学	12203	1		30			30		
		疾病・病態論 I (内科系1) *	12204	1		30		30			
		疾病・病態論 II (内科系2) *	12205	1		30			30		
		疾病・病態論 III (外科系1) *	12206	1		30			30		
		疾病・病態論 IV (外科系2) *	12207	1		30			30		
		疾病・病態論 V (産科・婦人科) *	12208	1		30		30			
		疾病・病態論 VI (小児科) *	12209	1		30			30		
	関係性の展開	心の科学	12301	2		30		30			
		臨床心理学	12302	2		30	30				
		公衆衛生学*	12303	1		15			15		
		医療概論*	12304	1		15	15				
		医療管理総論*	12305	1		15		15			
		医療管理各論 I *	12306	1		15		15			
医療管理各論 II *	12307	1		15				15			
専門基礎分野小計			22		525	135	210	165	15	0	0
専門分野 I	人間と社会の理解・専門知識と技術の探求	看護学概論	13101	1		30	30				
		看護過程	13102	1		30		30			
		チーム医療論	13103	1		15		15			
		フィジカルアセスメント	13104	1		30			30		
		基礎看護技術 I	13105	2		60	60				
		基礎看護技術 II	13106	2		60	60				
		基礎看護技術 III	13107	2		60		60			
		基礎看護学実習 I	13108	1		45	45				
		基礎看護学実習 II	13109	2		90		90			
専門分野 I 小計			13	0	420	195	195	30	0	0	0

は選択科目 ( ) は選択科目の卒業要件単位数

	授 業 科 目	科目コード	単位数		時間	1年		2年		3年		
			必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期	
専門分野Ⅱ	人間と社会の展開・理解・専門知識と技術の探求の実践	成人看護学概論	14101	1		30		30				
		成人看護援助方法Ⅰ	14102	1		15			15			
		成人看護援助方法Ⅱ	14103	2		45			45			
		成人看護援助方法Ⅲ	14104	2		45			45			
		成人看護援助方法Ⅳ	14105	2		45				45		
		高齢者看護学概論	14111	1		15		15				
		高齢者看護援助方法Ⅰ	14112	1		30			30			
		高齢者看護援助方法Ⅱ	14113	1		30				30		
		高齢者看護援助方法Ⅲ	14114	1		30				30		
		小児看護学概論	14121	1		30		30				
		小児看護援助方法Ⅰ	14122	1		30			30			
		小児看護援助方法Ⅱ	14123	2		60				60		
		母性看護学概論	14131	1		15	15					
		周産期看護論	14132	1		30			30			
		母性看護援助方法	14133	2		60				60		
		精神看護学概論	14141	1		15	15					
		精神看護援助方法Ⅰ	14142	1		30			30			
		精神看護援助方法Ⅱ	14143	1		30				30		
		精神保健論	14144	1		30			30			
		成人看護学実習Ⅰ	14106	2		90				90		
		成人看護学実習Ⅱ	14107	4		180					90	90
		高齢者看護学実習Ⅰ	14115	2		90					45	45
		高齢者看護学実習Ⅱ	14116	2		90					45	45
小児看護学実習	14124	2		90					45	45		
母性看護学実習	14134	2		90					45	45		
精神看護学実習	14145	2		90						90		
専門分野Ⅱ小計				40	0	1335	30	75	255	345	270	360
統合分野	人間と社会の展開・専門知識と技術の探求の実践	在宅看護概論	15101	1		30			30			
		在宅看護援助方法Ⅰ	15102	2		60				60		
		在宅看護援助方法Ⅱ	15103	1		30					30	
		看護管理論*	15111	1		30					30	
		医療情報学*	15112	1		30				30		
		医療安全論	15113	1		30				30		
		災害・国際看護	15114	1		30				30		
		在宅看護実習	15104	2		90					45	45
		看護学統合実習	15121	2		90						90
		統合分野小計				12	0	420	0	0	30	150
合 計				94	22	3180	570	585	555	570	405	495
卒業要件単位数				104								
授業科目		科目コード	単位数	時間	前期		後期					
自由科目	診療情報管理士	国際疾病分類概論*	S 101	1	15	15						
		国際疾病分類法Ⅰ*	S 102	2	30	30						
		国際疾病分類法Ⅱ*	S 103	2	30			30				
		診療情報管理論Ⅰ*	S 104	1	15	15						
		診療情報管理論Ⅱ*	S 105	1	15			15				
		病院事務管理実習Ⅰ*	S 106	1	45	45						
		病院事務管理実習Ⅱ*	S 107	1	45	45						
		小計		9	195	150		45				
		診療情報管理士受験資格必修単位				33	765					
*診療情報管理士受験資格取得に必要な科目												

				2-1
科目名	数と統計		担当教員名	番場昭三
科目コード 11204	2年前期（選択）		単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	基礎分野（知識と技術の探求）		授業形態	講義
科目概要	健康に関係する数量を数理科学的にとらえるための数学の基礎的知識や、統計学の基本的な考え方を学び、適切な統計処理の方法を修得する。看護研究で得られた結果の解釈や文献の理解を深めることをめざす。			
授業計画	1	数と集合		
	2	確率と確率変数		
	3	記述統計1（代表的統計値）		
	4	記述統計2（確率分布, 相関関係）		
	5	推測統計（母数の仮説検定, 独立性の検定）		
	6	推測統計とデータ表現		
	7	標本データの視覚化とその分析		
	8	総まとめ・テスト		
受講要件				
評価方法	課題・受講態度・テスト（課題20%・受講態度10%・テスト70%）			
注意・要望事項	注意は最初の講義で説明する。			
	高校で学習した数学Iと数学Aが復習してあることを要望します。			
テキスト	資料を配布します。			

科目名	英語Ⅲ	担当教員名	小澤淑子
科目コード 11304	2年前期（選択）	単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
科目概要	英語で表現された専門分野の文献を読む素地として、既に専門分野で学習した人体の構造と機能に関する英文を読む。専門分野の英語の語彙を知るとともに、理解した内容を学生同士で英語で質疑応答して英語をコミュニケーション手段として活用する。		
授業計画	1	Course Guidance, Regions of the Body (What makes up the human body? What are the systems of the human body named?)	
	2	Regions of the Body (What are the names of the regions of the human body? What words are used to show the positions and directions of the human body?)	
	3	The Skeletal and Muscular System (What are the characteristics of the three kinds of muscles? What are the functions of bones?)	
	4	The Digestive System (What organs work to provide nutrition for the body? How do the liver and the pancreas help digestion?)	
	5	The Blood: What are the functions of blood? What elements make up blood?	
	6	The Circulatory System: Where does blood go when it leaves the right ventricle and returns to the right atrium? What are the differences between cardiovascular system and lymphatic system?	
	7	The Respiratory System: What are the main functions of the respiratory system? What path does air take to alveoli?	
	8	The Urinary System; What are the functions of the urinary system? How and where urine is made?	
	9	The Nervous System: What categories are the nervous system classified into? What is the nerve cell made up of? What are the functions of autonomic nerves?	
	10	The Skin: What elements are included in the three layers of the skin? What are the physiological functions of the skin?	
	11	The Endocrine System: What endocrine glands are introduced in the textbook? How do they work?	
	12	The Male Reproductive System: Where is sperm made and stored? What is the function of the testis?	
	13	The Female Reproductive System: What is the function of the ovaries? What are the functions of estrogen and progesterone?	
	14	The Sensory System: What are the 5 senses? What parts of the brain are associated with hearing and with sight?	
	15	The Immune System: What is an antigen? How do antigens work in the immune response?	
受講要件	特になし		
評価方法	Quiz（課題成果）：42%、 Review（授業内容確認）：58%		
注意・要望事項	毎回、予習と復習が求められ、それが評価につながる。授業では学生同士で声を出して英語で質問し合いながら、内容の確認を進める。		
テキスト	実践！メディカル英語 小澤淑子編 オーム社（英語Ⅰ-Ⅳ 共通）		

科目名	英語Ⅳ	担当教員名	小澤淑子
科目コード 11305	2年前期（選択）	単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
科目概要	日常生活や医療現場で見られる症状・疾患・療法に関する英語表現を学ぶとともに、テキストの会話文について英語で質疑応答して内容理解を深める。こうしたタスク活動を通して医療に関わる場面におかれた人々の様々な心情に触れ、医療者としてどのような言語的対応が望まれるかを考える。		
授業計画	1	Course Guidance, Osteoporosis: understanding the textbook pp. 20-21	
	2	Osteoporosis: making questions and answering them	
	3	Osteoporosis: making questions and answering them	
	4	Constipation: understanding the textbook pp. 31-32	
	5	Constipation: making questions and answering them	
	6	Oxygen Therapy: understanding the textbook pp. 63-64	
	7	Oxygen Therapy: making questions and answering them	
	8	Cerebral Infarction: understanding the textbook pp. 70-71	
	9	Cerebral Infarction: making questions and answering them	
	10	Menopause: understanding the textbook pp. 106-107	
	11	Menopause: making questions and answering them	
	12	Prostatic Hypertrophy or Cancer: understanding the textbook pp.119-120	
	13	Prostatic Hypertrophy or Cancer: making questions and understanding them	
	14	STD: understanding the textbook pp. 127-128	
	15	STD: making questions and answering them	
受講要件	特になし		
評価方法	Quiz（課題成果）：42%、 Review（授業内容確認）：58%		
注意・要望事項	言語学習に際しては、その言語を使用する人の心情を考えることが必要である。我々が対話する場合にはどのような話題をどのような言葉で話すことで相手を理解でき、相手に受け入れられるかを考えなければならず、学生と教員が協力してそうした授業を展開できるように努力する必要がある。		
テキスト	実践！メディカル英語 小澤淑子編 オーム社（英語Ⅰ-Ⅳ 共通）		

科目名	臨床薬理学	担当教員名	松葉和久
科目コード 12203	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（知識と技術の探求）	授業形態	講義
科目概要	臨床薬理学では、種々の疾患に使用される多くの薬物のうちで重要かつ基本的な薬物について、その薬理作用ならびに作用機序を学ぶ。		
	疾患はホメオスタシスの乱れによるものである。薬物は神経刺激伝達物質、オータコイドなど生体内調節物質との相互作用によってその乱れを修復することを理解し、生体内調節物質の生理作用について理解し、薬理作用の機序について学ぶよう講義をする。		
授業計画	1	医薬品と法令、日本薬局方	
	2	処方せん、ノンコンプライアンス	
	3	投与剤形、体内動態、生体内利用率	
	4	自律神経、交感神経作用薬	
	5	副交感神経作用薬、筋弛緩薬	
	6	中枢神経作用薬（1）	
	7	中枢神経作用薬（2）、局所麻酔薬	
	8	心・血管作用薬（1）	
	9	心・血管作用薬（2）、血液・造血臓器作用薬	
	10	ヒスタミン・アンギオテンシン・プロスタグランジン	
	11	呼吸器・消化器系作用薬	
	12	化学療法薬	
	13	抗がん薬	
	14	ホルモンとビタミン	
	15	生物学的製剤	
受講要件			
評価方法	期末試験70%に加えて、受講態度20%、レポート10%によって成績を評価する。授業は事前にテキストの講義箇所を明示するので予習・復習をすること。		
注意・要望事項			
テキスト	大鹿英世他著 系統看護学講座—薬理学（医学書院）		

科目名	疾病・病態論Ⅱ（内科系2）	担当教員名	御供泰治
科目コード 12205	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（知識と技術の探求）	授業形態	講義
科目概要	疾病・病態の理解は、看護実践に欠かすことができないものであり、この「疾病・病態論Ⅱ」では、内科系疾患のうち、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、脳神経系を理解し、看護学の基礎的知識となるよう講義する。		
授業計画	1	肺炎（p.46）・肺結核症（p.51）	
	2	肺癌（p.61）	
	3	胃・十二指腸潰瘍（p.84）・胃癌（p.87）	
	4	大腸ポリープ（p.137）・大腸癌（p.140）	
	5	急性ウイルス性肝炎（p.91）	
	6	慢性ウイルス性肝炎（p.93）	
	7	肝硬変（p.102）・肝細胞癌（p.105）	
	8	腎炎（p.161）	
	9	ネフローゼ症候群（p.156）・慢性腎不全（p.169）	
	10	膀胱炎（p.191）・腎盂腎炎（p.188）	
	11	尿路結石（p.185）	
	12	虚血性脳血管障害（p.285）	
	13	パーキンソン病（p.294）	
	14	クモ膜下出血（p.281）・髄膜炎（p.291）	
	15	総まとめ・テスト	
受講要件			
評価方法	学期末の最終講義日に筆記試験		
注意・要望事項	人体の構造・機能Ⅱをよく学習しておくこと。		
テキスト	1学年で購入済みのナーシンググラフィカEX2「疾病と治療」（メディカ出版）を引き続き使用する。		

科目名	疾病・病態論Ⅲ（外科系1）	担当教員名	近藤三隆
科目コード 12206	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（知識と技術の探求）	授業形態	講義
科目概要	疾病としては新生物を中心として学ぶ。悪性新生物や心疾患の外科的療法や術後管理について看護に活用できるよう系統的に学ぶ。		
授業計画	1	序章・頭部及び頸部（気管切開）	
	2	肺癌	
	3	自然気胸・胸部外傷・胸部術前術後管理法	
	4	乳癌	
	5	心疾患の外科療法	
	6	脈管疾患 脾臓・循環器術後管理	
	7	食道手術疾患・術後管理 胃・十二指腸疾患・術後管理	
	8	腸・腹膜疾患	
	9	大腸・直腸癌および腹部外傷・消化器術後管理	
	10	肝・胆道系疾患および術後管理	
	11	膵臓・門脈疾患および術後管理	
	12	副腎・ヘルニア・肛門疾患	
	13	小児外科・先天性心疾患	
	14	外科各疾患の演習	
	15	まとめと試験	
受講要件			
評価方法	筆記試験		
注意・要望事項	最低限教科書を読んで予習を行わないと授業についていけない 適宜プリントを配布する		
テキスト	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論』		医学書院
	『系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論』		医学書院

科目名	疾病・病態論Ⅳ（外科系2）	担当教員名	丹羽滋郎 船越孝
科目コード 12207	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門基礎分野（知識と技術の探求）	授業形態	講義
科目概要	身体の形態、運動器に係わる骨、筋肉、関節、皮膚など筋骨格系の疾患を中心として整形外科的診断・治療及び脳神経外科的診断・治療を看護に活用できるよう系統的に学ぶ。		
	（丹羽非常勤講師）主として整形外科系疾患について担当する。		
	（船越非常勤講師）主として脳外科系疾患について担当する。		
授業計画	1	整形外科的診断・治療	丹羽
	2	骨折・脱臼	
	3	骨関節の炎症性疾患	
	4	骨・軟部腫瘍	
	5	上肢・下肢の疾患	
	6	脊椎・脊髄疾患	
	7	先天性疾患	
	8	整形外科まとめと試験	
	9	脳神経系の構造と機能	船越
	10	脳神経疾患の病態と症候	
	11	脳血管障害	
	12	脳腫瘍	
	13	頭部外傷、認知症	
	14	脳神経系の感染症	
	15	その他の脳神経疾患、脳神経系のまとめ	
受講要件			
評価方法	筆記試験（整形外科系疾患50点、脳外科系疾患50点）		
	脳外科系疾患は7回の講義終了後に試験を行う		
注意・要望事項	最低限教科書を読んで予習を行わないと授業についていけない		
	適宜プリントを配布する		
テキスト	『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳・神経』 医学書院		
	『系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10]運動器』 医学書院		

科目名	疾病・病態論VI (小児科)	担当教員名	杉本和優
科目コード 12209	2年前期 (必修)	単位数 (時間数)	1単位 (30時間)
科目区分	専門基礎分野 (知識と技術の探求)	授業形態	講義
科目概要	代表的な小児の疾患および小児期特有の疾患に関する病態・診断・治療・予後について、臓器系統別に学ぶ。小児特有の疾病病態や先天性疾患・外因性傷病も看護に活用できるよう系統的に学ぶ。		
授業計画	1 小児の特徴、小児疾患観察の手順、小児輸液方法 2 先天異常総論、各論 (染色体異常、TORCH症候群) 3 新生児疾患総論、各論 (分娩損傷、新生児黄疸、新生児メレナなど) 4 未熟児疾患総論、各論 (呼吸窮迫症候群、脳室内出血など) 5 呼吸器疾患総論、各論 (肺炎、クループ症候群、急性細気管支炎など) 6 先天代謝異常総論、各論 (アミノ酸代謝異常、脂質代謝異常など) 7 先天性心疾患総論、各論 (心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、ファロー四徴症など) 8 小児消化器疾患総論、各論 (口唇口蓋裂、横隔膜ヘルニア、肥厚性幽門狭窄症など) 9 小児血液疾患総論、各論 (貧血疾患、血液凝固異常疾患など) 10 小児の腎疾患総論、各論 (急性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、尿路系疾患など) 11 小児の神経疾患総論、各論 (熱性けいれん、てんかん、髄膜炎など) 12 小児の悪性疾患総論、各論 (白血病、神経芽細胞腫、ウィルムス腫瘍など) 13 小児の感染症総論 (予防接種など)、各論 (麻疹、風疹、水痘、ムンプスなど) 14 川崎病、小児気管支喘息 15 小児疾患総まとめ・テスト		
受講要件			
評価方法	テスト80%、受講態度 (自己評価を含む) 20%		
注意・要望事項	シラバスに基づく授業の予習、前回授業の復習 (復習テスト施行)、私語禁止		
テキスト	系統看護学講座 小児看護学①「小児看護学概論・小児臨床看護総論」 医学書院 系統看護学講座 小児看護学②「小児臨床看護各論」 医学書院		

科目名	公衆衛生学	担当教員名	中村正道
科目コード 12303	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	専門基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
科目概要	公衆衛生は、地域社会の組織的な努力と活動によって、集団的レベルにおける健康の保持・増進のための施策が推進されている。これらの基盤となる各種公衆衛生活動の実際について学び、組織社会における一個人としての、健康に関わる役割を知り、看護師としての活動の、公衆衛生的基盤を形成する。		
授業計画	1	公衆衛生と疫学：公衆衛生の定義、健康の概念、プライマリヘルスケア、疫学とは、疫学の方法、疫学的因果関係	
	2	感染症とその予防：感染症の種類と流行、感染症対策、主な感染症	
	3	食品衛生：食中毒、衛生管理、国民の栄養	
	4	生活習慣病：生活習慣病の現状と対策、健康日本21	
	5	地球環境と健康の指標：人口問題、人口統計、環境汚染と健康、環境保全対策、環境ホルモン、公害	
	6	母子保健・学校保健：母子保健事業、母子の生活環境改善、学校における保健管理業務と感染症予防対策	
	7	精神保健・産業保健：人間発達と精神保健、精神保健の現状と課題、労働環境と健康、ヘルスプロモーション	
	8	総括および試験	
受講要件			
評価方法	筆記試験		
注意・要望事項	教科書に書いてないことを多く板書します。従って、休むと試験に対応できなくなります。「出席する」が原点です。		
テキスト	厚生統計協会（編）：厚生指標（臨時増刊）、国民衛生の動向（1年時に購入済）		
期末試験によって評価する。			

			2-10
科目名	フィジカルアセスメント	担当教員名	竹下美恵子 佐久間佐織 小澤香奈恵 市川恭子
科目コード 13104	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門分野 I	授業形態	講義・演習
科目概要	患者の身体面にかかわるケアの根拠や効果の測定・評価に必要な情報を得るために必要なアセスメント技術について学ぶ。授業では看護の視点から患者の身体状況を系統的に、科学的根拠に基づいた意味のあるアセスメントができることを目的に講義・演習を展開する。		
授業計画	1	フィジカルアセスメントとは	
	2	健康歴の聴取	
	3	一般状態のアセスメント、皮膚・爪のアセスメント	
	4	頭頸部のアセスメント	
	5	眼のアセスメント、耳のアセスメント	
	6	呼吸器のアセスメント①	
	7	呼吸器のアセスメント②	
	8	心臓・血管系のアセスメント①	
	9	心臓・血管系のアセスメント②	
	10	乳房・腋窩のアセスメント、腹部のアセスメント	
	11	筋・骨格のアセスメント	
	12	神経系のアセスメント	
	13	実技テスト①	
	14	実技テスト②	
	15	実技テスト③	
受講要件	『人体の機能と構造』を修了している者が受講対象です。 事前学習や授業時間外の練習が必要です。		
評価方法	実技試験40%、課題30%、受講態度（自己評価含む）30%		
注意・要望事項	グループワークのため欠席しないように自己管理を行うこと。		
テキスト	小野田千枝子監修：実践！フィジカル・アセスメント—看護者としての基礎技術—（改訂第3版），金原出版，2009 山内豊明：フィジカルアセスメントガイドブック目と手と耳でここまでわかる，医学書院，2005 藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド，学研，2001		

			2-11
科目名	成人看護援助方法 I	担当教員名	園田裕子 大屋演子 小澤雪絵
科目コード 14102	2年前期	単位数 (時間数)	1 単位 (15時間)
科目区分	専門分野 II	授業形態	講義
科目概要	<p>看護師の臨床判断に不可欠な思考 (クリティカルシンキング) と観察する知識 (理論) についてを教授する。また、成人期にある人を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉える視点を理解する能力を養い、看護診断を含めた看護過程の基礎的知識を習得することをねらいとしている。</p>		
授業計画	1	本授業のガイダンス	
	2	看護過程と看護診断	
	3	情報とアセスメント	
	4	ゴードンの機能的健康パターン ①	
	5	ゴードンの機能的健康パターン ②	
	6	看護診断を用いた看護過程の理解 ①	
	7	看護診断を用いた看護過程の理解 ②	
	8	まとめ	
	9	テスト	
受講要件			
評価方法	授業態度 (課題提出状況を含む) 40% テスト60% で評価を行う。		
注意・要望事項	<p>①既習済みの疾患は、事前に復習して授業に望む。</p> <p>②テキストは授業前に用意しておくこと。</p> <p>③授業中、携帯電話の使用は禁止、出入りは原則として前の入り口のみとする。</p>		
テキスト	<p>M.GORDON著:ゴードン博士の看護診断アセスメント指針;よくわかる機能的健康パターン, 照林社.</p> <p>リンダJ.カルペニート著:看護診断ハンドブック, 第9版.</p>		

科目名	成人看護援助方法Ⅱ		担当教員名	小澤雪絵 園田裕子
科目コード 14103	2年前期		単位数(時間数)	2単位(45時間)
科目区分	専門分野Ⅱ		授業形態	講義
科目概要	健康の段階別の特徴と看護、周手術期にある患者の身体的、心理的、社会的問題を学ぶ。 各論では、系統別に代表的な疾患を取り上げ、看護実践に必要な疾患特有なアセスメント、 看護援助について学ぶ。事例を示しながら、演習、実習に繋げていけるよう教授する。			
授業計画	1	健康の段階別(急性期・慢性期・回復期・終末期)の特徴と看護	13	排泄(腎・膀胱)機能障害のある患者の看護
	2	健康の段階別(急性期・慢性期・回復期・終末期)の特徴と看護	14	排泄(腎・膀胱)機能障害のある患者の看護
	3	周手術期看護の概論	15	排泄(腎・膀胱)機能障害のある患者の看護
	4	周手術期看護の概論	16	生体防御機能障害のある患者の看護
	5	消化・吸収機能障害のある患者の看護	17	生体防御機能障害のある患者の看護
	6	消化・吸収機能障害のある患者の看護	18	生体防御機能障害のある患者の看護
	7	消化・吸収機能障害のある患者の看護	19	生体防御機能障害のある患者の看護
	8	消化・吸収機能障害のある患者の看護	20	性・生殖機能障害のある患者の看護
	9	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護	21	性・生殖機能障害のある患者の看護
	10	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護	22	性・生殖機能障害のある患者の看護
	11	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護	23	性・生殖機能障害のある患者の看護
	12	内分泌・代謝機能障害のある患者の看護	24	テスト
受講要件				
評価方法	課題の提出20%、テスト80%で評価を行う。			
注意・要望事項	①既習済みの疾患は、事前に復習して授業に望む。 ②テキストは授業前に用意しておくこと。 ③授業中、携帯電話の使用は禁止、出入りは原則として前の入り口のみとする。			
テキスト	看護診断ハンドブック 第9版、医学書院		高木永子:看護過程に沿った対症看護、学研(前期購入済)	
	関口恵子:経過別看護過程の展開、学研		水島祐:今日の治療薬2011 南江堂	
	神田清子:検査看護技術、ヌーヴェルヒロカワ(前期購入済)		周手術期看護論、ヌーヴェルヒロカワ	
	神田清子:看護データブック第2版、医学書院			
	M.ゴードン:ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン 照林社			
	日本糖尿病学会編:糖尿病食事療法のための食品交換表、文光堂			
	青木照明編:臨床外科看護総論、医学書院			
	北島正樹、藤村龍子編:臨床外科看護各論、医学書院			
	各系統看護学講座の専門分野 成人看護学2~10、医学書院			

				2-12
科目名	成人看護援助方法Ⅲ		担当教員名	園田裕子 小澤雪絵
科目コード 14104	2年前期		単位数(時間数)	2単位(45時間)
科目区分	専門分野Ⅱ		授業形態	講義
科目概要	成人期にある人を身体的・精神的・社会的に統合された存在として捉える視点を基盤に、看護師としての臨床判断と倫理的配慮についてを教授する。特に科目では、循環機能、呼吸機能、脳神経機能、運動機能に障害を持つ人と家族集団について学習し、病とともに生きる個人・集団の状況に応じた看護を実践するための基礎的知識を教授する。			
授業計画	1	ガイダンス	13	呼吸機能に障害のある患者の看護
	2	循環機能に障害のある患者の看護	14	脳・神経機能に障害のある患者の看護
	3	循環機能に障害のある患者の看護	15	脳・神経機能に障害のある患者の看護
	4	循環機能に障害のある患者の看護	16	脳・神経機能に障害のある患者の看護
	5	循環機能に障害のある患者の看護	17	脳・神経機能に障害のある患者の看護
	6	循環機能に障害のある患者の看護	18	脳・神経機能に障害のある患者の看護
	7	循環機能に障害のある患者の看護	19	脳・神経機能に障害のある患者の看護
	8	呼吸機能に障害のある患者の看護	20	運動機能に障害のある患者の看護
	9	呼吸機能に障害のある患者の看護	21	運動機能に障害のある患者の看護
	10	呼吸機能に障害のある患者の看護	22	運動機能に障害のある患者の看護
	11	呼吸機能に障害のある患者の看護	23	運動機能に障害のある患者の看護
	12	呼吸機能に障害のある患者の看護	24	テスト
受講要件				
評価方法	授業態度(課題提出状況を含む)40% テスト60% で評価を行う。			
注意・要望事項	①既習済みの疾患は、事前に復習して授業に望む。 ②テキストは授業前に用意しておくこと。 ③授業中、携帯電話の使用は禁止、出入りは原則として前の入り口のみとする。			
テキスト	私の看護ノート、医学書院		周手術期看護論、ヌーヴェルヒロカワ ※	
	慢性期看護論、ヌーベルヒロカワ		成人看護学[2]呼吸器、医学書院 ※	
	急性期看護論、ヌーベルヒロカワ		成人看護学[3]循環器、医学書院 ※	
	緩和・ターミナルケア看護論、ヌーヴェルヒロカワ		※は成人看護援助方法Ⅱでも使用	

科目名	高齢者看護援助方法 I		担当教員名	石田弘子 牧田和美
科目コード 14112	2年前期(必修)		単位数(時間数)	1単位(30時間)
科目区分	専門分野 II		授業形態	講義・演習
科目概要	<p>高齢者看護援助方法 I では、演習等を通し、体験的に「老い」について理解する。また、高齢者の「生活」を支える援助について理解し、生活行動を支援するための援助方法を学ぶ。</p>			
授業計画	1	高齢者看護の基本的な考え方		
	2	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	1	
	3	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	2	
	4	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	3	
	5	高齢者疑似体験学習、高齢者の生活史に関する文献学習	4	
	6	高齢者疑似体験学習と高齢者の生活史に関する文献学習のまとめと発表	1	
	7	高齢者疑似体験学習と高齢者の生活史に関する文献学習のまとめと発表	2	
	8	高齢者看護の展開		
	9	高齢者の安全と事故防止 1		
	10	高齢者の安全と事故防止 2		
	11	高齢者看護の基本技術 1		
	12	高齢者看護の基本技術 2		
	13	高齢者看護の基本技術 3		
	14	高齢者看護の基本技術 4		
	15	まとめ、試験		
受講要件				
評価方法	受講態度(20%)、課題レポート(20%)、筆記試験(60%)			
注意・要望事項	自分の身近にいる高齢者と積極的に接してみる。そして、高齢者から多くを学ぶこと。			
テキスト	新体系 看護学全書28 老年看護学概論 老年保健 メヂカルフレンド社 (1年時購入済)			
	高齢者の特徴と日常生活看護のポイント メヂカルビュー社 (1年時購入済)			
	生活機能からみた老年看護過程 医学書院			

科目名	小児看護援助方法 I		担当教員名	柴 邦代 三宅香織		
科目コード 14122	2年前期 (必修)		単位数 (時間数)	1単位 (30時間)		
科目区分	専門分野 II		授業形態	講義・演習		
科目概要	小児の健全な成長・発達を促進し、健康を増進するための小児期の健康生活の意義や養育のあり方について教授し、小児と家族への援助の必要性を学ぶ。また、小児の健康を支える家族への働きかけや他職種との協働・連携の重要性を認識し、小児の健康維持・増進のための看護援助方法について学ぶ。					
授業計画	1	ガイダンス / 小児の発達に応じた援助関係の形成				
	2	小児看護過程演習1-(1) 事例紹介				
	3	小児のフィジカルアセスメント(身体計測を含む)				
	4	小児の生活行動の発達と発達に応じた援助(1)				
	5	小児の生活行動の発達と発達に応じた援助(2)				
	6	A	小児看護過程演習1-(2) 成長発達のアセスメント		B	小児看護技術演習1-(1) フィジカルアセスメント
	7					
	8	A	小児看護技術演習1-(1) フィジカルアセスメント		B	小児看護過程演習1-(2) 成長発達のアセスメント
	9					
	10	まとめ / テスト				
	11	1日保育体験				
	12					
	13					
	14					
	15	保育体験での学びの共有				
受講要件						
評価方法	筆記試験 60%		レポート 40%			
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初回のガイダンスに出席しないとその後の学習に支障をきたすので、必ず出席してください。</li> <li>・小児と接する機会を自ら求め、小児や家族の行動を観察したり、新聞記事やテレビ番組等で紹介される小児関連情報に関心をもつようにしてください。</li> <li>・欠席や遅刻をできる限りしないようにしてください。やむを得ず欠席した場合は、すみやかに欠席届を提出し、資料などを研究室まで受け取りにくること。</li> <li>・課題の提出は、最終期限までに連絡なく提出されない場合、原則として単位認定対象者から除外します。</li> <li>・1日保育体験は補習が難しいため、必ず参加するようにしてください。</li> </ul>					
テキスト	①系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 (購入済) ②ナーシング・グラフィカ「小児の発達と看護」 メディカ出版 (購入済) ③ナーシング・グラフィカ「小児看護技術」 メディカ出版					

科目名	周産期看護論	担当教員名	野田貴代
科目コード 14132	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義
科目概要	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における対象の特性に基づいた看護の必要性を理解し、看護援助の基本について学ぶ。		
授業計画	1	母性看護学の考え方 周産期看護論の位置づけ	
	2	周産期看護における用語の定義（1）	
	3	周産期看護における用語の定義（2）	
	4	妊婦の看護 妊婦の心理・社会的特性	
	5	妊娠経過の理解（1）	
	6	妊娠経過の理解（2）	
	7	妊娠経過の理解（3）	
	8	産婦の看護 分娩第1期の看護（1）	
	9	分娩第1期の看護（2）	
	10	分娩第2期から分娩第4期の看護	
	11	褥婦の看護 産褥期の身体的変化	
	12	産褥期の心理・社会的変化	
	13	新生児の看護（1）	
	14	新生児の看護（2）	
	15	全体のまとめ、試験	
受講要件			
評価方法	試験		
注意・要望事項			
テキスト	『系統看護学講座 母性看護学[1]母性看護学概論』医学書院		(1年時購入済)
	『系統看護学講座 母性看護学[2]母性看護学各論』医学書院		(1年時購入済)

科目名	精神看護援助方法Ⅰ	担当教員名	出口睦雄 川合奈緒美
科目コード 14142	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義・演習
科目概要	精神看護援助方法Ⅰは、心の健康の保持増進および精神障害を持つ個人とその家族への継続的な援助方法を理解させる。特に、精神的諸症状への対応に関する知識・技術の理解と、看護治療的なかわり方を事例を通して教授する。		
授業計画	1	精神科看護の基本概念 目的、定義、役割など	
	2	リエゾン精神看護	
	3	集団療法	
	4	対人援助の基本と面接技術 - プロセスレコードを中心に -	
	5	対人援助の基本と面接技術 - プロセスレコードを中心に -	
	6	精神科領域で活用する技法	
	7	精神科領域で活用する技法	
	8	精神障害者の理解と看護	
	9	精神障害者の理解と看護	
	10	精神障害者の理解と看護	
	11	精神科治療と看護	
	12	行動制限と看護	
	13	プロセスレコード	
	14	プロセスレコード	
	15	総まとめ・テスト	
受講要件			
評価方法	筆記試験（95%）、課題（5%）の提出を考慮して評価する。		
注意・要望事項	テキストは毎回講義に持参して下さい。		
テキスト	「精神看護学Ⅰ-精神保健学-」吉松和哉他編集（ヌーヴェルヒロカワ）		
	「精神看護学Ⅱ-精神臨床看護学-」川野雅資編集（ヌーヴェルヒロカワ）		
	（1年時購入済）		

科目名	精神保健論	担当教員名	野中浩幸 森藤豊
科目コード 14144	2年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義
科目概要	精神保健論は、全科目に共通するものであり、また、現代社会において、最も注目すべき課題の一つであることを理解する。		
	心の健康問題は、人生のあらゆる時期、生活している人々のあらゆる場になる。医学的立場から主な精神疾患についてその病因と予防面について、看護の立場から援助について、人間として心の健康問題が起った時いかに対処するか、問題発生メカニズムと発生を予防することおよび人が人を援助することの意義について学ぶよう講義をする。		
授業計画	1	精神の健康を理解するための諸概念	
	2	精神障害におけるさまざまな精神症状(1)	
	3	精神障害におけるさまざまな精神症状(2)	
	4	幼児期・小児期・思春期の精神保健 家庭・学校における精神保健の諸問題	
	5	青年期・成人期・老年期の精神保健 学校・職場における精神保健の諸問題	
	6	精神障害者にかかわる法律の変遷・精神保健福祉法の概要(1)	
	7	精神保健福祉法の概要(2)	
	8	精神疾患総論	
	9	症状・器質性精神障害と精神作用物質による障害	
	10	↑ 統合失調症	
	11	↓ ↓ 気分障害	
	12	↓ ↓ ↓ 神経症	
	13	発達障害と人格障害	
	14	全体のまとめ	
	15	まとめと評価	
受講要件			
評価方法	試験（野中非常勤講師50点、森藤非常勤講師50点）		
	講義への積極的な参加態度を考慮し、その態度が筆記試験で十分表現されていることで総合的に評価する。－野中非常勤講師 試験70%、受講態度30%とし、試験では講義をどこまで聴けているかを確認するものとなる。－森藤非常勤講師		
注意・要望事項	私語などの他人への迷惑行為を禁止します。講義に積極的に参加するために、必ず予習と復習をするように心がけて下さい。－野中非常勤講師		
	講義に集中すること。注意散漫であっては、直前の試験勉強を徹底しようとも本講義を修了することはできない。－森藤非常勤講師		
テキスト	「精神看護学Ⅰ-精神保健学-」吉松和哉他編集（ニューヴェルヒロカワ）1年時購入済		
	「精神看護学Ⅱ-精神臨床看護学-」川野雅資編集（ニューヴェルヒロカワ）1年時購入済		

科目名	在宅看護概論		担当教員名	御田村相模 深谷由美
科目コード 15101	2年前期（必修）		単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	統合分野		授業形態	講義
科目概要	地域医療・地域看護との関連で、在宅看護の位置づけを明らかにし、在宅で療養している人々とその家族の理解をとおして在宅看護の機能や看護職の役割について学ぶ。			
授業計画	1	在宅看護とは		
	2	在宅看護の歴史と背景（1）		
	3	在宅看護の歴史と背景（2）		
	4	在宅看護の歴史と背景（3）		
	5	在宅看護の基礎理論		
	6	医療施設看護と在宅看護、在宅看護の対象者		
	7	在宅看護の展開に必要な法・制度（1）		
	8	在宅看護の展開に必要な法・制度（2）		
	9	在宅看護の展開に必要な法・制度（3）		
	10	在宅看護の展開に必要な法・制度（4）		
	11	在宅看護の展開に必要な法・制度（5）		
	12	在宅看護の展開に必要な法・制度（6）		
	13	地域の社会資源（フィールドワーク）の発表		
	14	地域の社会資源（フィールドワーク）の発表		
	15	地域ケアシステムとケアコーディネーション、テスト		
受講要件				
評価方法	受講態度（10%）、個人レポート（20%）、学力テスト（70%）等から総合的に評価する。			
注意・要望事項	遅刻および講義時間中の離席は厳禁 講義欠席者は欠席の都度、指示された内容のレポートを提出する。			
テキスト	「新版在宅看護論」 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社 「QOLを高めるリハビリテーション看護」 貝塚みどり他編著 医歯薬出版株式会社			

科目名	社会福祉論		担当教員名	伊藤秀樹
科目コード 11103	2年後期（必修）		単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（人間と社会の理解）		授業形態	講義
科目概要	児童、障がい者、高齢者などを対象に社会問題としての生活問題を抱えている			
	人々に対し、可能な限り通常の人々に近い自立生活を保障するための福祉政策、			
	地域福祉計画などの理解を深めることを目的とする。具体的には、高齢者福祉、			
	精神保健、障がい者・児福祉、家族・児童福祉など学ぶ。			
授業計画	1	生活と人権		
	2	労働と健康		
	3	ライフスタイルの変化		
	4	生活保護制度Ⅰ		
	5	生活保護制度Ⅱ		
	6	高齢者福祉Ⅰ		
	7	高齢者福祉Ⅱ		
	8	障がい者・児福祉		
	9	児童福祉		
	10	医療保険制度		
	11	介護保険制度Ⅰ		
	12	介護保険制度Ⅱ		
	13	年金制度		
	14	精神保健		
	15	総まとめ		
受講要件	科目概要を理解すること			
評価方法	期末の筆記試験（50%）、提出物（25%）、授業態度（25%）			
注意・要望事項	皆さんの積極的な授業参加を望む、私語など他の受講生に迷惑がかかる行為は厳禁			
テキスト	松井圭三・難波利光・伊藤秀樹共編『21世紀の社会保障論』理想書林			

科目名	英語Ⅴ（医学英語）		担当教員名	小澤淑子
科目コード 11306	2年後期（選択）		単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（関係性の展開）		授業形態	講義
科目概要	<p>「医学用語」の英語の学習は、カルテ記載事項の理解などに有益である。非常に多くの語彙学習が求められるが、術語の構造・用法の学習には専門分野の知識が助けとなり、またそれが専門分野の知識を深める。</p>			
授業計画	1	コースガイダンス、造語の基本、用語についての基本的な考え方		
	2	循環器	血液の流れと解剖用語	症状の用語
	3	呼吸器	空気の経路と解剖用語	症状と検査の用語
	4	呼吸器	治療の医学用語	診断の用語
	5	消化器	食物の経路と解剖用語	症状と検査の用語
	6	消化器	治療の医学用語	診断の用語
	7	泌尿器、生殖器	腎臓の解剖用語	症状と診断の用語
	8	代謝・内分泌	内分泌腺とホルモン	ホルモンの過剰症、欠乏症
	9	代謝・内分泌	内分泌の治療の用語	診断の用語
	10	神経	脳の解剖用語	検査・診断・治療の用語
	11	感覚器	目と耳の解剖用語	検査・診断・治療の用語
	12	骨格系	代表的な骨の名称	症状・検査・診断・治療の用語
	13	皮膚・感染・寄生虫	皮膚の解剖用語	症状・検査・診断・治療の用語
	14	精神医学	診断に関する用語	診断の用語
	15	乳腺、 妊娠・分娩・周産期	治療に関する表現	診断の用語
受講要件	特になし			
評価方法	Quiz（課題成果）：42%、Review（授業内容確認）：58%			
注意・要望 事項	語彙の基本的知識とともに、それらの語彙の用法と意味を文章中で理解できるように専門分野の英文を読む。これらの学習は受け身ではなしえないので、各自の自覚に基づいた積極的学習態度を期待する。			
テキスト	診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅱ（専門・診療情報管理編、日本病院会）			

科目名	医療管理各論Ⅱ	担当教員名	伊藤伸一
科目コード 12307	2年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	専門基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
科目概要	医療の質と保証、評価方法、平均在院日数などの臨床指標、医療費支払方法などを学び医療の質を理解する。具体的には医療現場における医療の標準化、クリニカル・パス、診断群分類（DPC）と見込み支払制度（PPS）、DRG、DPCなどを学ぶ。		
授業計画	<p>医療の需要と供給</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 日本の医療供給体制</li> <li>2) 保健、医療の新しい動向</li> <li>3) 医療変革の波と健康概念の質的転換について</li> </ol> <p>医療の質と保証</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療現場の診療情報共有</li> <li>2) 医療の標準化、クリニカル・パス</li> <li>3) 医療事故と安全管理</li> </ol> <p>医療の質の評価（病院機能評価）</p> <p>診断群分類による評価と支払</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 診断群分類と見込み支払（包括評価）制度</li> <li>2) DRG, DPC, RUGs</li> </ol>		
受講要件			
評価方法	テスト		
注意・要望事項			
テキスト	<p>系統看護学講座 専門基礎7 社会保障制度と生活者の健康〔1〕総合医療論（医学書院）</p> <p>診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅲ（主に3章）（専門・診療情報管理編、日本病院会） ※以上2冊1年時購入済</p>		

科目名	成人看護援助方法Ⅳ		担当教員名	小澤雪絵 園田裕子 大屋演子 近藤裕子 荒堀裕子 他1名
科目コード 14105	2年後期(必修)		単位数(時間数)	2単位(45時間)
科目区分	専門分野Ⅱ		授業形態	演習
科目概要	健康障害をもつ成人期の看護ケアに必要な看護技術を習得する。周手術期、慢性期の2事例を模擬患者を設定し展開する。次に、事例から状況を設定し、いくつかの看護計画を立案し、演習する。患者役看護師役を体験し経過記録の記載までを演習する。 一連の看護過程を体験することにより、臨地実習の看護技術力をに身につく演習とする。			
授業計画	1	オリエンテーション	13	オリエンテーション
	2	周手術期の事例の看護過程	14	慢性期の事例の看護過程
	3	周手術期の事例の看護過程	15	慢性期の事例の看護過程
	4	周手術期の事例の看護過程	16	慢性期の事例の看護過程
	5	周手術期の事例の看護過程	17	慢性期の事例の看護過程
	6	周手術期の事例の看護過程	18	慢性期の事例の看護過程
	7	周手術期の事例の看護過程	19	慢性期の事例の看護過程
	8	周手術期の事例の看護過程	20	慢性期の事例の看護過程
	9	周手術期の看護:術前オリエンテーションの不安の援助	21	慢性期の看護の援助①
	10	周手術期の看護:術前の呼吸訓練の指導	22	慢性期の看護の援助②
	11	周手術期の看護:術後観察	23	慢性期の看護の援助③
	12	周手術期の看護:術後観察	24	テスト
受講要件				
評価方法	慢性期、周手術期の2事例に対して、看護過程20%、技術演習40%、テスト40%の割合で評価する。合計点に加えて、6項目全てにおいて60%以上の取得を合格とする。技術演習の再試験はなく、テストのみ再試験を実施する。			
注意・要望事項	①演習には必ず出席する。やむ終えない理由で欠席した場合は、補習を行う。未修のままでは、単位を認定しない場合がある。 ②期日までに決められた課題を提出しない場合は、単位を認定しない場合がある。			
テキスト	看護診断ハンドブック 第9版、医学書院 ※		高木永子:看護過程に沿った対症看護、学研 ※	
	関口恵子:経過別看護過程の展開、学研 ※		水島祐:今日の治療薬2011、南江堂 ※	
	神田清子:検査看護技術、スーヴェルヒロカワ ※		周手術期看護論、スーヴェルヒロカワ ※	
	神田清子:看護データブック第2版、医学書院 ※		竹尾恵子:看護技術プラクティス、学研	
	M.ゴードン:ゴードン博士の看護診断アセスメント指針 よくわかる機能的健康パターン 照林社 ※			
			※は購入済	

科目名	高齢者看護援助方法Ⅱ	担当教員名	石田弘子 牧田和美
科目コード 14113	2年後期(必修)	単位数(時間数)	1単位(30時間)
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義・演習
科目概要	<p>高齢者看護援助方法Ⅱでは、高齢期にある人々が罹患しやすい疾患およびその症状の特徴や治療法、看護について学ぶ。</p> <p>さらに、その人らしい終焉を迎えるための援助についても学ぶ。</p> <p>健康障害をもつ高齢者を生活者としてとらえ、その人らしく生活を営むことができるように支援する方法を学ぶ。</p>		
授業計画	1	高齢者のヘルスアセスメント 1	
	2	高齢者のヘルスアセスメント 2	
	3	アクティビティ・ケアとは	
	4	アクティビティ・ケアとその実際	
	5	高齢者の罹患しやすい疾患とその看護 1	
	6	高齢者の罹患しやすい疾患とその看護 2	
	7	高齢者の罹患しやすい疾患とその看護 3	
	8	高齢者の罹患しやすい疾患とその看護 4	
	9	高齢者の主要症状と看護 1	
	10	高齢者の主要症状と看護 2	
	11	高齢者の主要症状と看護 3	
	12	検査、外科的治療を受ける高齢者の看護	
	13	高齢者の死を支える看護、家族の支援	
	14	高齢者と終末期看護	
	15	まとめ、試験	
受講要件			
評価方法	課題(20%)、筆記試験(80%)		
注意・要望事項			
テキスト	新体系 看護学全書28 老年看護学概論 老年保健	メヂカルフレンド社	} 購入済
	高齢者の特徴と日常生活看護のポイント	メジカルビュー社	
	生活機能からみた老年看護過程	医学書院	

科目名	高齢者看護援助方法Ⅲ	担当教員名	石田弘子 牧田和美
科目コード 14114	2年後期(必修)	単位数(時間数)	1単位(30時間)
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	講義・演習
科目概要	<p>高齢者看護援助方法Ⅲでは、高齢者の持てる力に着目した高齢者看護の展開方法を学ぶ。</p> <p>高齢者の望む生活とはどのような生活なのかということを重視し、生活を営む上で、高齢者のプラスの側面を前面に引き出すことができるような支援の方法を学ぶ。</p>		
授業計画	1	事例学習のガイダンス、高齢者看護の原則	
	2	事例学習1	
	3	事例学習2	
	4	事例学習3	
	5	事例学習4	
	6	事例学習のまとめ、援助計画立案	
	7	高齢者の日常生活を整えるための援助方法 1 (実技試験、DVD学習)	
	8	高齢者の日常生活を整えるための援助方法 2 (実技試験、DVD学習)	
	9	高齢者の日常生活を整えるための援助方法 3 (実技試験、DVD学習)	
	10	高齢者の日常生活を整えるための援助方法 4 (実技試験、DVD学習)	
	11	高齢者の安全を確保する援助方法、技術試験の総括	
	12	特別講演「認知症を学びましょう！」(外部講師)	
	13	高齢者看護の考え方と生活行動支援	
	14	高齢者看護の課題と展望	
	15	まとめ、試験	
受講要件			
評価方法	課題(20%)、実技試験(20%)、筆記試験(60%)		
注意・要望事項			
テキスト	新体系 看護学全書28 老年看護学概論 老年保健		メジカルフレンド社 購入済
	高齢者の特徴と日常生活看護のポイント		
	生活機能からみた老年看護過程		
	医学書院		

科目名	小児看護援助方法Ⅱ		担当教員名	柴 邦代 三宅香織			
科目コード 14123	2年後期（必修）		単位数（時間数）	2単位（60時間）			
科目区分	専門分野Ⅱ		授業形態	講義・演習			
科目概要	健康問題・障害が小児と家族に及ぼす影響、直面しやすい状況、小児期の健康問題・障害の経過に関する特徴について学び、健康問題をもつ小児の問題をアセスメントできるようにする。また、健康回復をめざす小児と家族への看護援助方法、基本援助技術についても学び、実習へのステップとする。						
授業計画	1	ガイダンス／小児看護過程2-(1)事例紹介		16	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護1 (ハイリスク新生児・障害児)		
	2	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護		17			
	3	看護過程2-(2) 疾患・治療および症状緩和の看護		18	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護2 (慢性疾患をもつ小児と家族の外来・入院・在宅における看護)		
	4	①講義 ②演習		19			
	5	看護過程2-(3) ①講義 ②演習 呼吸器疾患の急性期の幼児の食・栄養と排泄に関するアセスメント		20	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護3(周手術期)		
	6			21	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護4(救急・災害)		
	7	A	看護過程2-(4) 病状・治療に関するアセスメント	B	技術演習2-(1) フィジカルアセスメント	22	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護5(終末期)
	8					小児看護過程2-(6)まとめ/テスト①	
	9	A	技術演習2-(1) フィジカルアセスメント	B	看護過程2-(4) 病状・治療に関するアセスメント	24	技術演習2-(3) (実技チェック) 呼吸器疾患の急性期で持続点滴中の幼児の清潔援助
	10					25	
	11	検査・処置を受ける子どもと家族の看護		26	技術演習2-(4) (実技チェック) 呼吸器疾患の急性期で持続点滴中の幼児の清潔援助		
	12	看護過程2-(5) ①講義 ②演習 呼吸器疾患の急性期で持続点滴中の幼児の清潔に関するアセスメント・計画立案		27	技術演習2-(5) (実技チェック) 呼吸器疾患の急性期で持続点滴中の幼児の清潔援助		
	13			28			
	14	技術演習2-(2) 呼吸器疾患の急性期で持続点滴中の幼児の清潔援助		29			
	15			30	まとめ / テスト②		
受講要件	小児看護援助方法Ⅰの単位を取得しているもの						
評価方法	筆記試験60% 課題レポート20% 看護技術実技20% ※学習態度を含む						
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術演習は欠席などで迷惑をかけないように心がけてください。やむを得ない理由で欠席する場合は事前(当日の場合、演習開始前)に必ず連絡を入れてください。</li> <li>・欠席した場合は、可能な限り早期に、課題や補習などの指示を自分で確認してください(本人から申し出がない場合、原則として教員から連絡しません)。</li> <li>・看護技術および看護過程は講義時間外の時間を活用し、自主的かつ積極的に自己学習に取り組むようにしてください。技術の修得には反復練習が不可欠です。</li> <li>・課題の提出期限を厳守すること。やむを得ない理由で期限に遅れる場合、必ず締切時間までに本人が連絡してください。連絡が無い場合、提出物は採点対象外となりますので注意して下さい。</li> </ul>						
テキスト	①系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 (購入済) ②系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院 (購入済) ③ナーシング・グラフィカ「小児の発達と看護」 メディカ出版 (購入済) ④ナーシング・グラフィカ「小児看護技術」メディカ出版 (購入済)						

科目名	母性看護援助方法		担当教員名	野田貴代 都竹友季子
科目コード 14133	2年後期（必修）		単位数（時間数）	2単位（60時間）
科目区分	専門分野Ⅱ		授業形態	講義・演習
科目概要	女性のライフサイクル各期の特徴と看護を理解する。また妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期における看護援助の方法を学び実習へのステップとする。			
授業計画	1	ガイダンス	16	グループワーク（指導計画の立案）
	2	ハイリスク妊婦の看護	17	グループワーク（指導内容の作成）
	3	ハイリスクおよび医学的管理の必要性が高い産婦の看護	18	グループワーク（指導内容の作成、指導教材の準備）
	4	ハイリスクおよび医学的管理の必要性が高い産婦の看護	19	グループワーク（指導教材の準備）
	5	ハイリスク状態の新生児の看護	20	グループワーク（指導の練習）
	6	思春期の看護技術	21	グループ発表（1）
	7	成熟期の看護技術	22	グループ発表（2）
	8	更年期の看護技術	23	グループ発表（3）
	9	妊娠期の看護技術	24	グループ発表（4）
	10	分娩期の看護技術	25	グループ発表（5）
	11	新生児期の看護技術	26	グループ発表（6）
	12	産褥期の看護技術	27	グループ発表（7）
	13	母性看護における指導技術	28	母性看護学のまとめ（看護過程）（1）
	14	まとめ、試験	29	母性看護学のまとめ（看護過程）（2）
	15	母性看護学における指導のあり方、グループワークの進め方	30	母性看護学のまとめ（看護過程）（3）
受講要件				
評価方法	試験70%、グループ発表（準備、提出物等を含める）30%			
注意・要望事項	グループで①沐浴指導②産褥体操の指導③乳房管理の指導④補助動作と呼吸法の指導のロールプレイを行います。実際に臨地実習でも行う指導ばかりです。積極的に参加して下さい。			
テキスト	『系統看護学講座 母性看護学[1]母性看護学概論』医学書院			（1年時購入済）
	『系統看護学講座 母性看護学[2]母性看護学各論』医学書院			（1年時購入済）

科目名	精神看護援助方法Ⅱ		担当教員名	出口睦雄 川合奈緒美	
科目コード 14143	2年後期（必修）		単位数（時間数）	1単位（30時間）	
科目区分	専門分野Ⅱ		授業形態	講義・演習	
科目概要	精神看護援助方法Ⅱでは、主として、健康の段階の中で最も精神看護を必要としている終末期にある対象および家族に対する援助方法について学ばせる。対象の身体的、心理的、社会的、霊的状态をアセスメントし、対象および家族が持つ苦痛を全人的に捉え、身体的苦痛の軽減と精神的苦痛、霊的苦痛への対応について学ばせるとともに、対象の意思決定と医療者の役割、生きること、死ぬことの意味について考えるよう講義をする。				
授業計画	1	精神保健医療の沿革・歴史			
	2	精神看護の人権、入院形態			
	3	精神保健の動向			
	4	精神科治療と看護			
	5	精神科治療と看護			
	6	精神科治療と看護			
	7	看護判断と接近のしかた			
	8	看護判断と接近のしかた			
	9	精神障害とともに生きる家族に対する看護			
	10	地域精神保健活動			
	11	看護理論			
	12	精神看護学実習における看護過程			
	13	看護過程の展開			
	よって	看護過程の展開			
	15	総まとめ・テスト			
受講要件					
評価方法	筆記試験				
注意・要望事項	テキストは毎回講義に持参して下さい。 3年生の実習にそなえて各自積極的に学習して行ってください。				
テキスト	「精神看護学Ⅰ-精神保健学-」吉松和哉他編集（ヌーヴェルヒロカワ）1年時購入済				
	「精神看護学Ⅱ-精神臨床看護学-」川野雅資編集（ヌーヴェルヒロカワ）1年時購入済				

科目名	成人看護学実習 I	担当教員名	大屋演子 小澤雪絵 園田裕子 近藤裕子 荒堀裕子 他1名
期間	2年後期	単位数 (時間数)	2単位 (90時間)
科目区分	専門分野 II	授業形態	実習
科目概要	慢性に経過する疾病又は終末期にある成人期の対象及び家族への関わりを通じた看護を中心に、専門的知識、技術を習得する。また、人間尊重の理念に基づいた態度で健康障害を明らかにし、看護過程により問題解決の実践を学ぶ。		
実習計画	(実習期間)		
		平成24年2月13日～3月9日	
	(実習施設)		
		総合大雄会病院、大雄会第一病院	
	(実習指導)		
		学生を8～10グループに分け、1グループ4～5名で実施する。	
		各病棟に教員を1～2名配置し、病棟の指導者と共に学生の指導にあたる。	
	(実習方法)		
		受け持ち患者を通して初めて看護過程を展開するため、情報の解釈・分析に重点を置く。優先度の高い看護上の問題を挙げ、看護過程を展開、実施、評価初めて実施する看護技術については、指導者か教員と共に実施する。毎日、カンファレンスを持ち、一日の振り返りと翌日の情報を収集する。	
		1週目の木曜日に臨床講義を受ける。2週目の木曜日に指導者と教員で最終カンファレンスを実施する。	
受講要件	成人看護学概論、成人看護援助方法 I～IVの単位を習得あるいは、習得見込みであること。		
評価方法	①評価は、100点満点で60点以上を合格とする。 ②実習目標の達成度、実習参加度、提出記録に基づいた自己評価及び教員評価を行う。		
注意・要望事項	体調を整えて、臨地実習に望んでほしい。		
テキスト	オリエンテーションで指示する。		

科目名	在宅看護援助方法 I		担当教員名		御田村相模 深谷由美	
科目コード 15102	2年後期（必修）		単位数（時間数）		2単位（60時間）	
科目区分	統合分野		授業形態		講義・演習	
科目概要	福祉用具の活用方法を学習しながら、在宅看護で必要とされる日常生活援助技術について事例を通して学習する。在宅医療看護について、療養の場を考慮した実践ができるよう学習をすすめる。					
授業計画	1	ガイダンス（見学実習オリエンテーション、グループ課題決定）、事前学習課題提示	16	ガイダンス、在宅での医療処置の現状と支援		
	2		17	危機管理・感染予防と感染症		
	3	A福祉用具見学体験	18	在宅酸素療法		
	4		19	人工呼吸器		
	5	B福祉用具見学体験	20	人工肛門・摘便		
	6		21	人工膀胱・膀胱留置カテーテル		
	7	日常生活援助グループ課題のまとめ（プレゼン準備）	22	経管栄養		
	8		23	中心静脈栄養		
	9	グループ課題発表、講評		24	褥瘡	
	10	グループ課題発表、講評		25	CAPD・透析	
	11	グループ課題発表、講評		26	服薬管理	
	12	グループ課題発表、講評		27	在宅ターミナルケア	
	13	グループ課題発表、講評		28	小児・精神疾患療養者の在宅看護	
	14	グループ課題発表、講評		29	認知症の在宅看護	
	15	グループ課題発表、講評 総括		30	まとめとテスト	
受講要件	ガイダンス及び福祉用具体験見学は必ず全員出席のこと					
評価方法	(1～15回) グループ課題 (30%)、個人レポート (30%)、グループワーク参加状況 (15%)、夏期課題 (15%)、その他の受講態度 (10%)、等から総合的に評価する。 (16～30回) 受講態度 (10%)、レポート (30%)、テスト (60%) から総合的に評価する。					
注意・要望事項	16回目以降の進め方は、第16回の講義時に再度オリエンテーションする。グループワークに積極的に参加すること。					
テキスト	「新版在宅看護論」 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社 「QOLを高めるリハビリテーション看護」 貝塚みどり他編著 医歯薬出版株式会社				} 前期購入済	

科目名	医療情報学	担当教員名	石井成郎 吉矢富美子 伊東裕康
科目コード 15112	2年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	統合分野	授業形態	講義・演習
科目概要	これまでに学習した情報処理スキルを活用して、医療に関する統計資料の利用方法や看護研究の基礎を学ぶ。具体的には、実験・調査等の進め方や分析のための統計処理技術、医療データの評価方法を学ぶ。		
授業計画	1	ガイダンス パソコンの使い方の復習	石井 伊東
	2	研究と情報(1)：看護研究の基礎	
	3	研究と情報(2)：看護用具・自助具に関する調査	
	4	研究と情報(3)：研究計画の立案	
	5	研究と情報(4)：看護用具・自助具の製作1	
	6	研究と情報(5)：看護用具・自助具の製作2	
	7	研究と情報(6)：看護用具・自助具の評価	
	8	研究と情報(7)：看護用具・自助具の改良1	
	9	研究と情報(8)：看護用具・自助具の改良2	
	10	研究と情報(9)：レポート作成	
	11	医療情報(1)：医療情報学とは	吉矢
	12	医療情報(2)：情報とシステム	
	13	医療情報(3)：医療情報の特徴と種類	
	14	医療情報(4)：医療情報の標準化	
	15	医療情報(5)：医療データの評価	
受講要件			
評価方法	研究と情報 50点（作業報告書 20点，作成物 15点，レポート 15点） 医療情報 50点		
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報処理入門で学習した内容を各自復習しておくこと。</li> <li>・グループで協力して看護研究に取り組むこと。</li> </ul>		
テキスト	診療情報管理Ⅲ 専門・診療情報管理編 日本病院会 （1年時購入済）		

科目名	医療安全論	担当教員名	大屋演子
科目コード 15113	2年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	統合分野	授業形態	講義
科目概要	医療の現場でなぜ事故は起こるのかについて、医療事故と看護事故、医療過誤、医療訴訟の法的責任を理解し、看護事故の現状から原因と予防に焦点を当て、看護の安全に対する危機管理ができるよう学ぶ。		
授業計画	1	1. 医療安全と看護の責務	
	2	2. 医療安全施策と医療の質の評価	
	3	2. 医療安全施策と医療の質の評価	
	4	3. 事故発生のメカニズムと防止対策	
	5	3. 事故発生のメカニズムと防止対策	
	6	4. 医療機関における安全対策	
	7	4. 医療機関における安全対策	
	8	5. 看護における安全対策	
	9	5. 看護における安全対策	
	10	6. 医療事故後の対応	
	11	6. 医療事故後の対応	
	12	7. 看護業務上の危険と防止策	
	13	7. 看護業務上の危険と防止策	
	14	8. 看護学生の実習と安全	
	15	9. 看護学生の実習と安全	
	16	テスト	
受講要件			
評価方法	テスト（50点）・レポート作成と発表（45点）・授業態度（5点）		
注意・要望事項	1. 演習後のレポート作成と発表などを予定しています。欠席すると得点されない ので、注意してください。 2. 実習中の医療安全の状況を学習するレポートの作成を予定しています。		
テキスト	松下由美子・杉山良子・小林美雪 ナーシンググラフィカEX 医療安全、メディカ出版		

科目名	災害・国際看護	担当教員名	小澤雪絵 大屋演子 園田裕子 論田裕子 近藤裕子 荒堀裕子 他1名
科目コード 15114	2年後期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	統合分野	授業形態	講義、演習
科目概要	災害医療と救急医療の違いを理解し、災害サイクルに応じた看護を学ぶ。		
	演習では、救護技術や搬送方法、トリアージ訓練などを行う。また、災害に関連する国際協力機関と協力の仕組みや災害看護のあり方について学ぶ。		
	グローバル化に伴う国際社会と国際看護の現状について学ぶ。また全世界の		
	人々の生活の質の向上に従事する看護師として貧困、疾病、格差などに関わる国際的な諸問題について学ぶ。特別講義では、国際看護を実践した経験者から看護活動を聴講する。		
授業計画	1	災害の定義、災害看護の定義と役割	
	2	災害の歴史、災害の種類と特徴	
	3	災害サイクルと看護	
	4	災害サイクルと看護	
	5	被災者と救援者に対する「こころのケア」	
	6	防災に関するテーマを挙げて、地域の防災活動を知る（グループワーク）	
	7	技術演習：応急処置	
	8	技術演習：心肺蘇生法	
	9	技術演習：トリアージ、搬送、応急処置の総合訓練	
	10	技術演習：トリアージ、搬送、応急処置の総合訓練	
	11	テストと災害看護のまとめ	
	12	国際看護概論	
	13	国際看護	
	14	特別講義	
	15	特別講義	
受講要件			
評価方法	災害看護：レポート10%、テスト60%、演習20%の割合で総合的に評価する。 国際看護：レポート10%で評価する。		
注意・要望事項	災害看護では、演習に必ず参加する。休んだ場合は、補習を実施する。		
テキスト	小原真理子、酒井明子編：災害看護、南山堂		
	田村やよひ編：新体系看護学全書39 国際看護学、メジカルフレンド社		

授業科目・単位数（第6期生）

	授 業 科 目		科目 コード	単位数		時間	1年		2年		3年	
				必修	選択		前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	人間と社会の理解	スポーツ科学	11101	1		15	15					
		保健体育実技	11102	1		45	45					
		社会福祉論*	11103	2		30				30		
		現代社会と家族	11104	2		30		30				
		暮らしと経済	11105		2	30		30				
		歴史と文化	11106		2	30	30					
					(2)							
	知識と技術の探求	生物学	11201		1	15	15					
		化学	11202		1	15	15					
		物理学	11203		1	15		15				
		数と統計*	11204		1	15			15			
					(2)							
	関係性の展開	情報処理入門*	11301	1		30	30					
		英語Ⅰ	11302		2	30	30					
		英語Ⅱ	11303		2	30		30				
		英語Ⅲ	11304		2	30			30			
		英語Ⅳ	11305		2	30			30			
		英語Ⅴ*	11306		2	30				30		
英語Ⅵ		11307		2	30					30		
異文化と言語		11308		2	30	30						
				(6)								
基礎分野小計			7	22	480	210	105	75	60	30	0	
(選択科目必修単位)				(10)	(150)							
専門基礎分野	社会と人間の理解	人体の構造・機能Ⅰ*	12101	2		60	60					
		人体の構造・機能Ⅱ*	12102	2		60		60				
	知識と技術の探求	栄養と代謝	12201	1		30		30				
		微生物学・免疫学*	12202	1		30	30					
		臨床薬理学	12203	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅰ（内科系1）*	12204	1		30		30				
		疾病・病態論Ⅱ（内科系2）*	12205	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅲ（外科系1）*	12206	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅳ（外科系2）*	12207	1		30			30			
		疾病・病態論Ⅴ（産科・婦人科）*	12208	1		30		30				
	疾病・病態論Ⅵ（小児科）*	12209	1		30			30				
	関係性の展開	心の科学	12301	2		30		30				
		臨床心理学	12302	2		30	30					
		公衆衛生学*	12303	1		15			15			
		医療概論*	12304	1		15	15					
		医療管理総論*	12305	1		15		15				
		医療管理各論Ⅰ*	12306	1		15		15				
	医療管理各論Ⅱ*	12307	1		15				15			
専門基礎分野小計			22		525	135	210	165	15	0	0	
専門分野Ⅰ	人間と社会の関係性の展開・専門知識と技術の探求の実践	看護学概論	13101	1		30	30					
		看護過程	13102	1		30		30				
		チーム医療論	13103	1		15		15				
		フィジカルアセスメント	13104	1		30			30			
		基礎看護技術Ⅰ	13105	2		60	60					
		基礎看護技術Ⅱ	13106	2		60	60					
		基礎看護技術Ⅲ	13107	2		60		60				
		基礎看護学実習Ⅰ	13108	1		45	45					
		基礎看護学実習Ⅱ	13109	2		90		90				
		専門分野Ⅰ小計			13	0	420	195	195	30	0	0

は選択科目 ( ) は選択科目の卒業要件単位数



科目名	英語VI	担当教員名	小澤淑子
科目コード 11307	3年前期（選択）	単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	基礎分野（関係性の展開）	授業形態	講義
科目概要	看護専門職としてのアカデミックな場面で求められる英語力の基礎を養成する。すなわち、専門分野の英語論文を読んで理解できるようになるために、専門分野の英文を読むことを目標とし、日本語論文と共通する論文の構成を確認しながら批判的に読む練習をする。		
授業計画	1	コースガイダンス、論文1：Title・Author・Abstract・Keywords	
	2	論文1： Introduction	
	3	論文1： Materials and Method	
	4	論文1： Results	
	5	論文1： Discussion	
	6	論文1： Conclusion	
	7	コースガイダンス、論文2：Title・Author・Abstract・Keywords	
	8	論文2： Introduction	
	9	論文2： Materials and Method	
	10	論文2： Results	
	11	論文2： Discussion	
	12	論文2： Conclusion	
	13	論文3：Title, Author, Abstract, Keywords, Introduction	
	14	論文3：Materials and Method, Results	
	15	論文3：Discussion, Conclusion	
受講要件	特になし		
評価方法	課題：60%、発表：20%、レポート：20%		
注意・要望事項	自律的学習態度求められ、かなりの課外の学習時間が必要となる。そうした学習で理解できる部分とできない部分を明確にして授業に臨み、積極的に授業に参加できないようであれば単位取得は困難である。		
テキスト	プリントを配布		

科目名	在宅看護援助方法Ⅱ	担当教員名	御田村相模 深谷由美
科目コード 15103	3年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）
科目区分	統合分野	授業形態	講義・演習
科目概要	医療的な管理を必要としている在宅療養者が、安心して療養継続できるような看護が提供できるように、これまでの専門領域で習得した学習内容を確認して、在宅という療養の場を考慮した実践ができるよう学習をすすめる。		
授業計画	1	ガイダンス、在宅での医療処置の現状と支援 援助方法Ⅰ課題 看護過程についての講評	
	2	危機管理・感染予防と感染症	
	3	在宅酸素療法	
	4	人工呼吸器	
	5	人工肛門・摘便	
	6	人工膀胱・膀胱留置カテーテル	
	7	服薬管理、麻薬の扱い	
	8	経管栄養	
	9	中心静脈栄養、ポート、インスリン	
	10	在宅ターミナルケア	
	11	褥瘡	
	12	CAPD・透析	
	13	小児・精神疾患療養者の在宅看護	
	14	認知症の在宅看護	
	15	まとめとテスト	
受講要件	在宅看護概論及び在宅看護援助方法Ⅰが終了していること		
評価方法	受講態度（10%）、レポート（30%）、テスト（60%）で評価する		
注意・要望事項	成人看護学など他の専門領域で既習得した学習を復習して受講すること		
テキスト	「新版在宅看護論」 木下由美子編著 医歯薬出版株式会社		2年時購入済
	「地域療養を支えるケア」 桜井尚子編著 MCメディカ出版		2年時購入済

科目名	看護管理論	担当教員名	野田みや子																														
科目コード 15111	3年前期（必修）	単位数（時間数）	1単位（30時間）																														
科目区分	専門教育科目（関係を深める）	授業形態	講義																														
科目概要	<p>【授業の概要】 管理論の発展過程、主要概念、組織論などの「管理」についての基本的概念を学び、看護管理過程に必要な知識と技術を学習する。 病院の管理経営を中心に看護と経済についても概観する。</p> <p>【学習目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 管理の基本概念、基礎的管理手法を理解する。</li> <li>2. 看護ケアにおけるマネージメントを理解する。</li> <li>3. 看護をめぐる動向、医療制度を理解する。</li> <li>4. 看護サービスのマネージメントを理解する。</li> <li>5. 看護管理に必要なスキルを習得する。</li> </ol>																																
授業計画	<table border="1"> <tr><td>1</td><td>コースガイダンス、看護管理の定義、ナイチンゲールと看護管理</td></tr> <tr><td>2</td><td>看護管理過程：組織とマネージメント、看護とマネジメント</td></tr> <tr><td>3</td><td>看護管理過程：協働のための看護管理、看護基準・看護手順</td></tr> <tr><td>4</td><td>看護管理過程：情報管理と情報開示</td></tr> <tr><td>5</td><td>看護の質保証と看護管理：看護サービスの組織化</td></tr> <tr><td>6</td><td>看護の質保証と看護管理：ケアの変革</td></tr> <tr><td>7</td><td>看護の質保証と看護管理：患者の権利擁護と看護倫理、安全管理</td></tr> <tr><td>8</td><td>看護の質保証と看護管理：看護実践の評価</td></tr> <tr><td>9</td><td>看護管理のスキル：組織の調整技術</td></tr> <tr><td>10</td><td>看護管理のスキル：リーダーシップとマネジメント</td></tr> <tr><td>11</td><td>看護管理のスキル：コミュニケーションと意思決定</td></tr> <tr><td>12</td><td>看護と経営：病院組織と経営、医療を取り巻く環境</td></tr> <tr><td>13</td><td>看護と経営：看護職の経営参画</td></tr> <tr><td>14</td><td>看護職と生涯教育</td></tr> <tr><td>15</td><td>まとめと試験</td></tr> </table>			1	コースガイダンス、看護管理の定義、ナイチンゲールと看護管理	2	看護管理過程：組織とマネージメント、看護とマネジメント	3	看護管理過程：協働のための看護管理、看護基準・看護手順	4	看護管理過程：情報管理と情報開示	5	看護の質保証と看護管理：看護サービスの組織化	6	看護の質保証と看護管理：ケアの変革	7	看護の質保証と看護管理：患者の権利擁護と看護倫理、安全管理	8	看護の質保証と看護管理：看護実践の評価	9	看護管理のスキル：組織の調整技術	10	看護管理のスキル：リーダーシップとマネジメント	11	看護管理のスキル：コミュニケーションと意思決定	12	看護と経営：病院組織と経営、医療を取り巻く環境	13	看護と経営：看護職の経営参画	14	看護職と生涯教育	15	まとめと試験
1	コースガイダンス、看護管理の定義、ナイチンゲールと看護管理																																
2	看護管理過程：組織とマネージメント、看護とマネジメント																																
3	看護管理過程：協働のための看護管理、看護基準・看護手順																																
4	看護管理過程：情報管理と情報開示																																
5	看護の質保証と看護管理：看護サービスの組織化																																
6	看護の質保証と看護管理：ケアの変革																																
7	看護の質保証と看護管理：患者の権利擁護と看護倫理、安全管理																																
8	看護の質保証と看護管理：看護実践の評価																																
9	看護管理のスキル：組織の調整技術																																
10	看護管理のスキル：リーダーシップとマネジメント																																
11	看護管理のスキル：コミュニケーションと意思決定																																
12	看護と経営：病院組織と経営、医療を取り巻く環境																																
13	看護と経営：看護職の経営参画																																
14	看護職と生涯教育																																
15	まとめと試験																																
受講要件	学ぶ意欲があり、授業に参加できる。																																
評価方法	授業態度、受講態度（自己評価含む）、授業参加態度等 テスト80%、課題10%、受講態度（自己評価を含む）10%																																
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共に学ぶ仲間に迷惑をかけること。</li> <li>・講義、討議、グループワークに積極的に参加すること。</li> </ul>																																
テキスト	「系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践[1]看護管理」 医学書院																																
	<p>参考図書：さくらももこ「ちびまる子ちゃんのナイチンゲール」 集英社 井部俊子、中西睦子監修「看護管理学習テキスト1～7」日本看護協会出版会 松村啓史「ナイチンゲールに学ぶときめきの経営」 メディカ出版 筒井孝子監修「看護必要度第3版」日本看護協会出版会</p>																																

科目名	成人看護学実習Ⅱ	担当教員名	大屋演子 小澤雪絵 園田裕子 近藤裕子 荒堀裕子 他1名
科目コード 14107	3年前後期(必修)	単位数(時間数)	4単位(180時間)
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	実習
科目概要	成人期にある対象の発達の特徴をふまえ、受け持った対象の個別の健康障害を明らかにし、看護過程に基づき人間関係を維持しながら看護が実践できる能力を養う。さらに、クリティカルケアや周手術期を含めた急性期の看護を中心に、対象に適応した看護を実践する。		
実習計画	(実習期間)		
		平成23年5月9日～10月28日	
	(実習施設)		
		総合大雄会病院、大雄会第一病院	
	(実習指導)		
		1 グループの学生を5～7名に分けて実施する。	
		各病棟に教員1～2名を配置し、病棟の指導者と共に学生の指導にあたる。	
	(実習方法)		
		受け持ち患者を通して初めて看護過程を展開するため、情報の解釈・分析に重点を置く。優先度の高い看護上の問題を挙げ、看護過程を展開、実施、評価する。	
		初めて実施する看護技術については、指導者か教員と共に実施する。毎日、カンファレンスを持ち、翌日の情報を収集する。	
	1週目の月曜から木曜日は、検査室、ICU、救命救急センター、手術室、透析センターの実習を実施する。2週目の木曜日に臨床講義を聞き、3週目の木曜日に中間カンファレンスを学生が主体的に運営する。4週目の木曜日に最終カンファレンスを実施する。		
受講要件	オリエンテーションに必ず参加する。		
評価方法	①評価は、100点満点で60点以上を合格とする。 ②実習目標の達成度、実習参加度、提出記録に基づいた自己評価及び教員評価を行う。		
注意・要望事項	体調を整えて、臨地実習に望んでほしい。		
テキスト	オリエンテーションで指示する。		

科目名	高齢者看護学実習 I	担当教員名	石田弘子 牧田和美
科目コード 14115	3年前期・後期(必修)	単位数(時間数)	2単位(90時間)
科目区分	専門分野 II	授業形態	実習
科目概要	<p>老人施設で生活している人々を全人的に理解し、個々の高齢者の価値観を尊重したかかわりを通して、日常生活支援を实践する。 施設で働く他職種の役割を理解した上で、看護職の役割を理解する。 また、「生活する」「生きる」ということについて考える。</p>		
実習計画	(実習期間)		
		平成23年5月9日(月)～10月28日(金)	
	(実習施設)		
		高齢者福祉施設 新和楽荘	
		老人保健施設 アウン	
	(実習指導)		
		学生を10グループに分け、それぞれのグループを2つのチームに分けて、	
		それぞれの施設で交互に実習する。	
	(実習方法)		
		・原則として利用者1名を受け持ち、施設の日課に従い、職員と共に	
		日常生活支援を実施する。	
		・受け持ちに限らず、多くの高齢者とかわる。	
受講要件			
評価方法	実習内容(実習記録、態度、カンファレンスへの参加姿勢等を含む)を評価する。		
注意・要望事項	<p>①積極的、自主的に実習すること。 ②看護短期大学生としての言動をすること。 ③詳細は実習要項を参照すること。</p>		
テキスト			

科目名	高齢者看護学実習Ⅱ	担当教員名	石田弘子 牧田和美
科目コード 14116	3年前期・後期(必修)	単位数(時間数)	2単位(90時間)
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	実習
科目概要	<p>健康障害をもつ高齢者を理解し、個々の高齢者が質、量ともに充実した人生を送ることができるような看護支援を実践する。 また「生命の質」について考えを深める。 さらに、高齢者と社会のつながりについて理解し、現状と課題・展望について考える。</p>		
実習計画	(実習期間)		
		平成23年5月9日(月)～10月28日(金)	
	(実習施設)		
		医療法人泰玄会 泰玄会西病院	
	(実習指導)		
		学生を10グループに分け、1グループ(8名程度)ずつローテーションで実習する。	
	(実習方法)		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として患者1名を受け持ち、看護を展開する。</li> <li>・受け持ちに限らず、多くの高齢者とかわる。</li> </ul>	
受講要件			
評価方法	実習内容(実習記録、態度、カンファレンスへの参加姿勢等を含む)を評価する。		
注意・要望事項	<p>①積極的、自主的に実習すること。 ②看護短期大学生としての言動をすること。 ③詳細は実習要項を参照すること。</p>		
テキスト			

科目名	小児看護学実習	担当教員名	柴邦代 三宅香織
科目コード 14124	3年前期・後期（必修）	単位数（時間数）	2単位（90時間）
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	実習
科目概要	小児看護学実習は、臨床における臨地実習を行う。小児の発達特性の理解に基本をおき、子どもへの接近法、健康障害を持つ子どもの問題のアセスメント、発達段階に応じた看護援助および家族との関わり方などを体験を通して学習する。		
実習計画	(実習期間)		
	平成23年5月9日から平成23年11月11日		
	※ 詳細は平成23年度年間看護学実習計画表参照		
	(実習施設)		
	総合大雄会病院 中2階 小児病棟		
	(実習指導)		
	教員は各グループを単位認定者および助教1名で受け持ち、臨床指導者とともに実習指導を行う		
	(実習方法)		
<p>① 小児病棟における看護の特色についてオリエンテーションを受け、小児の安全・安楽を守るための看護について学んでもらう。</p> <p>② 入院中の子どもや家族とのかかわりや臨床スタッフによる指導を通して、小児看護におけるコミュニケーションの特色や方法を学び、受持患児との援助的関係形成を目ざしてもらう。</p> <p>③ 入院中の小児を受け持ち、健康障害や入院が子どもや家族に及ぼしている影響について考えるとともに、対象児の発達段階・病状・治療方針に応じた日常生活援助を計画・実施することを通して、小児看護の特徴について学んでもらう。</p> <p>④ 処置に際しての看護の実際を体験することを通して、子どもにとって最小限の苦痛を保障し、子どものがんばる力を引き出すための看護者のかかわりと姿勢について学んでもらう。</p> <p>⑤ 経験記録による振り返り・カンファレンスでの情報交換や話し合いを通して、臨地実習でしか学ぶことのできない小児看護についての学びを深めてもらう。</p>			
受講要件			
評価方法	<p>① 実習内容、レポート、出席状況をもって評価を行う。</p> <p>② 実習評価表を用いて自己評価を行い、その後担当教員が評価を行う。</p>		
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児病棟で接触する可能性の高い感染症（麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎）の自分の抗体値を確認し、実習の3カ月前までに予防接種を済ませておくようにしましょう。</li> <li>・実習中は清潔なユニフォームを常に着用できるように、必要な枚数（特にエプロン）を準備しておいてください。</li> <li>・展開の早い小児病棟での実習に備えて、看護計画の立案や看護技術を含め、既習内容の復習や事前学習を十分に行っておいてください。</li> </ul>		
テキスト	講義時に使用した教科書類は、講義中に配布した資料とともに必ず携帯して下さい。関連教科の教科書も必要時携帯して下さい。参考文献は実習中に紹介します。		

科目名	母性看護学実習	担当教員名	野田貴代 都竹友季子
科目コード 14134	3年前期・後期（必修）	単位数（時間数）	2単位（90時間）
科目区分	専門分野Ⅱ	授業形態	実習
科目概要	妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期にある対象の健康状態をアセスメントし、対象に応じた看護援助を実践する。また対象への看護援助を通して、生命の大切さについて考える。		
実習計画	（実習期間）		
	平成23年5月から平成23年11月		
	（実習施設）		
	大雄会第一病院 東9階（産科病棟）東10階（産科外来）		
	東7階（産科チーム）		
	（実習指導）		
	学生を10グループにわけ、1グループ（8名程度）ずつとし、ローテーションで実施する。		
	（実習方法）		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩は原則として1例以上を見学し、指導者とともに観察・援助を実施する。</li> <li>・1例の褥婦を受け持ち看護過程を展開する。</li> <li>・受け持ち褥婦の新生児を観察しアセスメントを行う。</li> <li>・産科外来実習では情報収集をした上で2～3人の一連の流れを見学する。</li> <li>・メンバー全員が協力し、退院指導の一部である沐浴の集団指導を実施する。</li> </ul>		
受講要件			
評価方法	実習評価表を用いて自己評価を行い、その後担当教員が評価を行う。		
注意・要望事項	詳細は実習要項を参照して下さい。		
テキスト			

科目名	精神看護学実習	担当教員名	出口睦雄 川合奈緒美
科目コード 14145	3年後期（必修）	単位数（時間数）	2単位（90時間）
科目区分	専門科目Ⅱ	授業形態	実習
科目概要	精神看護学実習は、臨床における臨地実習を行う。精神障害のある対象の特性を理解することに基本をおき、治療的援助関係を通して対象のセルフケア能力を高める援助方法を適用し、社会復帰に向けての地域ケアサービスの活用も含めて、体験実習を行う。		
実習計画	（実習期間）		
	平成23年9月～11月		
	（実習施設）		
	医療法人桜桂会 犬山病院		
	社会医療法人杏嶺会 いまいせ心療センター		
	（実習指導）		
	同時期に、2つのグループが犬山病院といまいせ心療センターにわかれ実習を行う。		
	教員は各施設に1名配置して指導に当たる。		
	（実習方法）		
	・各グループは、配置された実習病棟で患者を1名受け持ち、看護過程を展開する。		
	・実習中にカンファレンス、実習反省会を行い、学習した内容について共有化を図る。		
	・精神科の特徴的な治療（SST、作業療法、レクリエーション療法等）については、積極的に参加する。		
	受講要件		
評価方法	①実習評価表を用いて自己評価を行い、その後担当教員が評価を行う。		
注意・要望事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の詳細は実習要項で確認すること。</li> <li>・カンファレンスなどでは積極的に発言して下さい。</li> <li>・看護短期大学生としての言動をすること。</li> </ul>		
テキスト	「精神看護学Ⅰ-精神保健学-」吉松和哉他編集（ヌーヴェルヒロカワ） 「精神看護学Ⅱ-精神臨床看護学-」川野雅資編集（ヌーヴェルヒロカワ）		

				3-10
科目名	在宅看護実習	担当教員名	御田村相模 深谷由美	
科目コード 15104	3年前期・後期（必修）	単位数（時間数）	2単位（90時間）	
科目区分	統合分野	授業形態	実習	
科目概要	在宅看護実習は、在宅における対象を健康状態や環境を総合的に捉え、個別の健康問題を明らかにし、地域社会の援助・支援システムをいかに活用しているか、また補足するための分析、調整がいかにおこなわれているかを看護援助の実践の中から学ぶ目的で実習を行う。			
実習計画	（実習期間）			
	平成23年5月9日（月）～11月11日（金）			
	（実習施設）			
	a：訪問看護ステーション・アウン、老人保健施設アウン通所リハビリテーション（デイケア）			
	b：新生訪問看護ステーション・アウン、音羽デイサービスセンター・アウン			
	c：稲沢市医師会訪問看護ステーション、通所介護施設わらく倶楽部			
	（実習指導）			
	学生80名を10グループにわけ、さらに a・b・c の実習施設グループごとに、2から3名の学生で実施する。教員は各施設毎に指導に当たる。			
	（実習方法）			
	配置された訪問看護ステーションで療養者を1名受け持ち、臨地実習指導者ならびに教員の指導のもとに在宅訪問を実践し看護過程の展開を学習する。実習期間中に2日間は通所施設での実習とし通所施設スタッフならびに教員の指導のもとに看護を実践する。各施設毎にカンファレンスを持ち、看護実践と理論を結びつけをする。また第2週目には全体カンファレンスを行い各施設で学習した内容の共有化を計る。			
受講要件	在宅看護関係の教科学習が終了していること			
評価方法	実習評価表（実習目標と実習態度）を用いて自己評価を行い、その後担当教員が評価を行う。			
注意・要望事項	療養者及び家族の方に受け入れてもらえるようなマナーを実践してください。見学実習に終わらず、療養者と家族の方と積極的に関わりを持ってください。			
テキスト				

				3-11
科目名	看護学統合実習	担当教員名	野田貴代 大屋演子 竹下美恵子 御田村相模 小澤雪絵 石田弘子 柴邦代 佐久間佐織 園田裕子 出口睦雄 小澤香奈恵 市川恭子 近藤裕子 荒堀裕子 牧田和美 三宅香織 都竹友季子 川合奈緒美 深谷由美 他1名	
科目コード 15121	3年後期（必修）	単位数（時間数）	2単位（90時間）	
科目区分	統合分野	授業形態	実習	
科目概要	看護専門科目および全ての臨地実習を履修した後に、専門分野での実習を踏まえ、業務に即した実習を行う。具体的に実習ではチームメンバーとして複数の患者を受け持ちケアの優先度にそってケアを計画し実施し、看護の実践的・総合的能力を高める。			
実習計画	(実習期間)	平成 23年 11月 21日（月）～ 12月 2日（金）		
	(実習施設)	総合大雄会病院、大雄会第一病院、大雄会クリニック、いまいせ心療センター 訪問看護ステーション・アウン、新生訪問看護ステーション・アウン 稲沢市医師会訪問看護ステーション		
	(実習指導)	全学生を看護領域ごとにわけ、それぞれの領域で実習指導を行う。		
	(実習方法)	配置された病棟で、原則としてチームメンバーとして複数の患者を受け持ち臨地実習指導者ならびに担当教員の指導のもとにケアの優先度にそってケアを計画し実施し、看護を实践する。基本的に毎日午後、カンファレンスを持ち、実践と理論を結びつけ看護の総合的能力を養う。		
		具体的スケジュールは実習要項による。		
	受講要件			
	評価方法	実習評価表を用いて自己評価を行い、その後担当教員が評価する。		
	注意・要望事項	積極的な臨地実習を展開してください。		
テキスト	担当教員が指示する。			

					S-1
科目名	国際疾病分類概論		担当教員名	愛敬美一	
科目コード S101	全学年前期（選択）		単位数（時間数）	1 単位（15時間）	
科目区分	自由科目		授業形態	講義	
科目概要	<p>医療情報のIT化が進む中で、医療情報を標準化された分類コードで区分されることの意義を理解する。具体的には疾病を体系的に分類している国際疾病分類の構造を知り、コード選択ルールや使用上の注意点と問題点を把握し、的確な利用方法などを学ぶ。</p>				
授業計画	<p>1. 国際疾病分類（ICD）の基礎的理解を深める</p> <p>国際疾病分類（ICD）についての歴史と現在の状況を概観し、わが国における利用の現状を理解する。</p> <p>1) 我が国の医療情勢と診断群分類(DPC)</p> <p>2) 国際疾病分類(ICD)の概念</p> <p>3) 国際疾病分類(ICD)の歴史</p> <p>4) わが国における国際疾病分類(ICD)の利用、現状と課題</p> <p>5) 他の国際疾病分類(ICD)、国際生活機能分類(ICF)、他</p> <p>6) 2つの選択ルール（主要病態と原死因）</p> <p>7) 死亡診断書・死因統計</p> <p>2. 医療現場における分類コード適用の意味と問題点</p> <p>1) 国際疾病分類(ICD)の実際の利用</p> <p>2) 国際疾病分類(ICD)使用上の注意点と問題</p> <p>3) 国際疾病分類(ICD)以外の疾病分類、処置分類</p>				
受講要件					
評価方法	授業態度20%、筆記試験80%				
注意・要望事項					
テキスト	<p>診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅳ（主に1章） （専門・国際疾病分類法編、日本病院会）</p>				

科目名	国際疾病分類法 I	担当教員名	愛敬美一
科目コード S102	全学年前期 (選択)	単位数 (時間数)	2単位 (30時間)
科目区分	自由科目	授業形態	講義
科目概要	<p>人体の構造と機能、疾病病態論で学習した知識を活かして、疾病や医療行為、看護ケアなどに関連する種々の現象を一定のルールに従って分けるための分類方法を学習する。具体的には国際疾病分類を用いて分類技術と使用方法を学ぶ。</p>		
授業計画	コーディングに際しての留意事項		
	1) 国際疾病分類 (ICD) 編纂の基準とその特徴		
	2) 複数疾病分類、複合病態分類および二重分類		
	3) 国際疾病分類 (ICD) で使用されている記号と符号		
	4) ICD-10と ICD-9-CM		
	5) ICD索引表の構造および傷病名の構成		
	6) 用語の定義、ICD索引表の構造および傷病名の構成		
受講要件			
評価方法	授業態度20%、筆記試験80%		
注意・要望事項			
テキスト	診療情報管理士テキスト、診療情報管理IV (主に2章) (専門・国際疾病分類法編、日本病院会)		

科目名	国際疾病分類法Ⅱ	担当教員名	愛敬美一
科目コード S103	全学年後期（選択）	単位数（時間数）	2単位（30時間）
科目区分	自由科目	授業形態	講義
科目概要	国際疾病分類法Ⅰをふまえて、看護記録や診療録などの診療記録の記載内容を把握して、その病態や看護ケア、医療行為、退院時要約による入院中の総括をICD-10の確証に沿った分類法で標準化されたルールに則して分類（コーディング）して情報活用する技術を学ぶ。		
授業計画	コーディングの実際		
	1) 主要病態、死因		
	2) 医療行為		
	3) 退院時要約による総合学習		
受講要件			
評価方法	授業態度20%、筆記試験80%		
注意・要望事項			
テキスト	診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅳ（主に2章） （専門・国際疾病分類法編、日本病院会）		

科目名	診療情報管理論 I	担当教員名	額額博之
科目コード S104	全学年前期（選択）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	自由科目	授業形態	講義
科目概要	診療情報管理の背景と沿革、診療情報管理と法令、診療情報管理部門のあり方、診療記録の種類と内容、診療記録の記載方法、診療記録の電子化への対応などについて学ぶ。なお、診療情報とは、診療の過程で、患者の身体状況や病状、治療、看護ケアなどについて医療従事者が知り得た情報をいい、紙媒体、電子媒体にかかわらずすべての情報を含む。		
授業計画	診療情報管理論 I		
	1) 診療に関する情報		
	2) 診療情報管理の背景と沿革		
	3) 診療情報管理と法令		
	4) 診療情報管理部門のあり方		
	5) 診療記録の種類と内容		
	6) 診療記録の記載方法		
	7) 診療記録の電子化への対応		
受講要件			
評価方法	1. 期末筆記試験 60% 2. 課題 20% 3. 受講態度、出席状況 20%		
注意・要望事項	患者が医療機関を受診すると必ず診療記録が作成され診療に関する情報が記録される。その記録に関する理解を深めよりよい記録の作成を支援するため、診療に関する法律の取り組みに基づき、記録のあり方とそこから発生する情報の活用、その管理体制の骨組みを学ぶ。		
テキスト	診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅲ（主に6章） （専門・診療情報管理編、日本病院会）		

科目名	診療情報管理論Ⅱ	担当教員名	額額博之
科目コード S105	全学年後期（選択）	単位数（時間数）	1単位（15時間）
科目区分	自由科目	授業形態	講義
科目概要	診療情報管理部門の日常業務、診療情報の収集・管理や診療情報の提供や資料作成、索引業務、がん登録などの診療情報の活用について学ぶ。		
授業計画	診療情報管理論Ⅱ		
	1) 診療情報管理部門の日常業務		
	2) 診療情報の収集（診療記録の監査、コーディング）		
	3) 診療情報の管理		
	診療記録の保管		
	貸出管理（アリバイ管理）		
	情報の精度管理		
	安全管理		
	4) 診療情報の活用		
	診療情報の検索（索引業務）		
	診療情報の提供		
	がん登録とのかかわり		
受講要件			
評価方法	1. 期末筆記試験60% 2. 課題20% 3. 受講態度、出席状況20%		
注意・要望事項	診療情報管理の業務内容、実務について学ぶ。診療情報管理業務を円滑に行うための組織づくりから、診療記録の種類、診療情報管理業務を行うにあたり必要な管理手法や手技について学ぶ。		
テキスト	診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅲ（主に7章） （専門・診療情報管理編、日本病院会）		

科目名	病院事務管理実習 I	担当教員名	愛敬美一
科目コード S106	全学年前期（選択）	単位数（時間数）	1単位（45時間）
科目区分	自由科目	授業形態	実習
科目概要	<p>病院事務管理実習 I では、医療に係わる者としての態度や接遇を習得するとともに、病院の基本的機能を理解し、入院や外来診療に伴う情報（電子媒体、紙媒体など）の流れとこれらの情報の管理のしかたを知り、医療情報の管理体制の必要性を理解する。主に病棟以外の医事管理室、診療情報管理室において病院システムに関する実習を行う。</p>		
授業計画	実習病院		
	総合大雄会病院		
	大雄会第一病院		
	大雄会クリニック		
	その他		
	診療情報の提供		
	疾病登録とのかかわり		
	受講要件		
評価方法	実習態度90%、レポート10%		
注意・要望事項			
テキスト	<p>診療情報管理士テキスト、診療情報管理Ⅲ（主に7章） （専門・国際疾病分類法編、日本病院会）</p>		

書式1

【資金収支計算書／資金収入の部】

(単位:千円)

区 分	平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金収入	349,050	349,050	333,050	333,050	345,700	345,700
手数料収入	4,901	4,901	6,635	6,635	10,935	10,935
寄付金収入	0	0	0	0	0	0
補助金収入	56,802	56,802	57,144	57,144	60,868	60,868
資産運用収入	1,520	1,520	920	920	683	683
資産売却収入	0	0	0	0	0	0
事業収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	1,963	1,963	3,360	3,360	1,537	1,537
借入金等収入	0	0	0	0	0	0
前受金収入	70,450	—	78,550	—	75,150	—
その他の収入	4,114	—	200,940	—	3,737	—
資金収入調整勘定	△ 80,500	—	△ 72,814	—	△ 79,266	—
前年度繰越支払資金	441,914	—	457,800	—	656,561	—
収入の部合計	850,215	414,237	1,065,586	401,110	1,075,907	419,724

人件費支出	226,995	222,517	227,986	223,617	218,600	215,030
教育研究経費支出	68,297	68,297	69,101	69,101	78,357	78,357
管理経費支出	42,811	42,344	48,925	48,076	51,003	50,527
借入金等利息支出	0	0	0	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0	0	0	0
施設関係支出	0	0	0	0	0	0
設備関係支出	2,647	2,647	22,735	22,735	7,763	7,763
資産運用支出	50,039	—	50,019	—	50,029	—
その他の支出	5,443	—	4,153	—	7,669	—
資金支出調整勘定	△ 3,819	—	△ 13,897	—	△ 9,851	—
次年度繰越支払資金	457,800	—	656,561	—	672,335	—
支出の部合計	850,215	335,806	1,065,586	363,529	1,075,907	351,678

【消費収支計算書／消費収入の部】

区 分	平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度	
	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分	法人全体分	うち短期大学分
学生生徒等納付金	349,050	349,050	333,050	333,050	345,700	345,700
手数料	4,901	4,901	6,635	6,635	10,935	10,935
寄付金	836	836	0	0	148	148
補助金	56,802	56,802	57,144	57,144	60,868	60,868
資産運用収入	1,520	1,520	920	920	683	683
資産売却差額	0	0	0	0	0	0
事業収入	0	0	0	0	0	0
雑収入	1,963	1,963	3,360	3,360	1,537	1,537
帰属収入合計	415,073	415,073	401,110	401,110	419,872	419,872
基本金組入額合計	△ 3,483	△ 3,483	△ 13,221	△ 13,221	△ 9,914	△ 9,914
消費収入の部合計	411,590	411,590	387,889	387,889	409,957	409,957

【消費収支計算書／消費支出の部】

人件費	229,058	224,580	229,391	225,022	219,022	215,452
教育研究経費	105,742	105,742	106,626	106,626	118,994	118,994
(うち減価償却額)	( 37,445 )	( 37,445 )	( 37,525 )	( 37,525 )	( 40,637 )	( 40,637 )
管理経費	48,519	48,052	54,664	53,815	57,226	56,750
(うち減価償却額)	( 5,707 )	( 5,707 )	( 5,738 )	( 5,738 )	( 6,222 )	( 6,222 )
借入金等利息	0	0	0	0	0	0
資産処分差額	0	0	0	0	118	118
徴収不能引当金繰入額(または徴収不能額)	0	0	0	0	0	0
消費支出の部合計	383,321	378,375	390,682	385,464	395,361	391,315
当年度消費収入(支出)超過額	28,268	—	△ 2,793	—	14,596	—
前年度繰越消費収入(支出)超過額	371,810	—	400,079	—	397,285	—
(何)年度消費支出準備金繰入額	0	—	0	—	—	—
(何)年度消費支出準備金取崩額	0	—	0	—	—	—
基本金取崩額	0	—	0	—	—	—
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	400,079	—	397,285	—	411,881	—

貸借対照表の概要(学校法人)

(各年度末日現在/単位:千円)

資産の部			
科 目	平成20年度末	平成21年度末	平成22年度末
固定資産	1,569,472	1,398,962	1,409,925
有形固定資産	1,315,476	1,288,482	1,250,731
その他の固定資産	253,995	110,480	159,194
有価証券	0	0	0
長期貸付金	0	0	0
減価償却引当特定資産	50,039	100,058	150,088
第3号基本金引当預金	0	0	0
施設利用権	215	196	178
長期性預金	200,000	0	0
保証金	3,740	3,740	3,740
ソフトウェア		6,484	5,187
流動資産	459,551	659,698	673,824
現金預金	457,800	656,561	672,335
未収入金	550	2,364	716
短期貸付金	0	0	0
有価証券	0	0	0
前払金	1,200	772	772
資産の部合計	2,029,023	2,058,661	2,083,750

負債の部			
固定負債	10,880	19,481	21,038
流動負債	75,205	85,814	84,834
前受金	70,450	78,550	75,150
未払金	2,919	5,500	7,944
預り金	1,835	1,764	1,740
負債の部合計	86,085	105,296	105,873

基本金の部			
基本金合計	1,542,858	1,556,079	1,565,994

消費収支差額の部			
翌年度繰越消費収入(支出)超過額	400,079	397,285	411,881

注1:「その他の固定資産」と「流動資産」の「\*\*」欄には、その他の資金性科目及びすぐに資金化できる科目を書いてください。

注2:上記のほかに評価前年度の「外部負債」及び「運用資産」の金額を記入してください。(単位:千円)

外部負債	(=借入金+学校債+未払金+手形債務)
7,944	

運用資産	(=現金預金+引当特定預金+有価証券)
822,423	

消費収支計算書関係比率

項目	算式	22年度		21年度		20年度		19年度		18年度			
		分子	分母	分子	分母	分子	分母	分子	分母	分子	分母		
1	人件費比率 一般に低い方がよい	219,022,730	419,872,725	229,391,577	401,110,454	229,058,946	415,073,281	194,707,493	402,779,156	250,789,208	365,015,870	48.3	68.7
2	人件費依存率 100%を超えないことが望ましい	219,022,730	345,700,000	229,391,577	333,050,000	229,058,946	349,050,000	194,707,493	338,550,000	250,789,208	348,800,000	57.5	71.9
3	教育研究経費率 収支を考慮し高い方がよい	118,994,611	419,872,725	106,626,918	401,110,454	105,742,977	415,073,281	105,501,634	402,779,156	105,452,510	365,015,870	26.1	28.8
4	管理経費比率 低い方が望ましい	57,226,402	419,872,725	54,664,174	401,110,454	48,519,772	415,073,281	53,309,931	402,779,156	44,555,495	365,015,870	13.2	12.2
5	借入金等利息比率 低い方がよい	0	419,872,725	0	401,110,454	0	415,073,281	0	402,779,156	0	365,015,870	0	0
6	帰属収支差額比率 高い方がよい	24,510,867	419,872,725	10,427,785	401,110,454	31,751,586	415,073,281	49,099,098	402,779,156	-35,990,623	365,015,870	12.1	-9.8
7	消費収支比率 100%に近く低い方がよい	395,361,858	409,957,875	390,682,669	387,889,031	383,321,695	411,590,024	353,680,058	400,281,714	401,006,493	352,971,140	88.3	113.6
8	学生生徒等納付金比率 高い方がよい	345,700,000	419,872,725	333,050,000	401,110,454	349,050,000	415,073,281	338,550,000	402,779,156	348,800,000	365,015,870	84.0	95.5
9	寄付金比率 高い方がよい	148,136	419,872,725	0	401,110,454	836,116	415,073,281	5,944,748	402,779,156	3,500,000	365,015,870	1.4	0.9
10	補助金比率 高い方がよい	60,868,000	419,872,725	57,144,000	401,110,454	56,802,820	415,073,281	47,959,000	402,779,156	0	365,015,870	11.9	0
11	基本金組入率 一般に高い方がよい	9,914,850	419,872,725	13,221,423	401,110,454	3,483,257	415,073,281	2,497,442	402,779,156	12,044,730	365,015,870	0.6	3.2
12	減価償却費比率	46,860,006	395,361,858	43,264,556	390,682,669	43,153,513	383,321,695	43,101,005	353,680,058	43,415,032	401,006,493	12.1	10.8

貸借対照表関係比率

項目	算式	22年度		21年度		20年度		19年度		18年度	
		分子	分母	分子	分母	分子	分母	分子	分母	分子	分母
1	固定資産構成比率 一般に低い方がよい	$\frac{1,409,925,462}{2,083,750,063}$	67.6	$\frac{1,398,962,351}{2,058,661,773}$	67.9	$\frac{1,569,472,077}{2,029,023,185}$	77.3	$\frac{1,559,103,317}{2,003,233,181}$	77.8	$\frac{1,598,642,844}{1,958,323,580}$	81.6
2	流動資産構成比率 一般に低い方がよい	$\frac{673,824,601}{2,083,750,063}$	32.3	$\frac{659,698,922}{2,058,661,773}$	32.0	$\frac{459,551,108}{2,029,023,185}$	22.6	$\frac{444,129,864}{2,003,233,181}$	22.1	$\frac{359,680,736}{1,958,323,580}$	18.3
3	固定負債構成比率 一般に低い方がよい	$\frac{21,038,918}{2,083,750,063}$	1.0	$\frac{19,481,789}{2,058,661,773}$	0.9	$\frac{10,880,435}{2,029,023,185}$	0.5	$\frac{8,817,405}{2,003,233,181}$	0.4	$\frac{7,946,785}{1,958,323,580}$	0.4
4	流動負債構成比率 一般に低い方がよい	$\frac{84,834,957}{2,083,750,063}$	4.0	$\frac{85,814,663}{2,058,661,773}$	4.1	$\frac{75,205,214}{2,029,023,185}$	3.7	$\frac{83,229,826}{2,003,233,181}$	4.1	$\frac{88,289,943}{1,958,323,580}$	4.5
5	自己資金構成比率 一般に高い方がよい	$\frac{1,977,876,188}{2,083,750,063}$	94.9	$\frac{1,953,365,321}{2,058,661,773}$	94.8	$\frac{1,942,937,536}{2,029,023,185}$	95.7	$\frac{1,911,185,950}{2,003,233,181}$	95.4	$\frac{1,862,086,852}{1,958,323,580}$	95.0
6	消費収支差額構成比率 一般に高い方がよい	$\frac{411,881,564}{2,083,750,063}$	19.7	$\frac{397,285,547}{2,058,661,773}$	19.2	$\frac{400,079,185}{2,029,023,185}$	19.7	$\frac{371,810,856}{2,003,233,181}$	18.5	$\frac{325,209,200}{1,958,323,580}$	16.6
7	固定比率 一般に低い方がよい	$\frac{1,409,925,462}{1,977,876,188}$	71.2	$\frac{1,398,962,851}{1,953,365,321}$	71.6	$\frac{1,569,472,077}{1,942,937,536}$	80.7	$\frac{1,559,103,317}{1,911,185,950}$	81.5	$\frac{1,598,642,844}{1,862,086,852}$	85.8
8	固定長期適合率 100%以下で低い方がよい	$\frac{1,409,925,462}{1,998,915,106}$	70.5	$\frac{1,398,962,851}{1,972,847,110}$	70.9	$\frac{1,569,472,077}{1,953,817,971}$	80.3	$\frac{1,559,103,317}{1,920,003,355}$	81.2	$\frac{1,598,642,844}{1,870,033,637}$	85.4
9	流動比率 200%以上が望ましい	$\frac{673,824,601}{84,834,957}$	794.2	$\frac{659,698,922}{85,814,663}$	768.7	$\frac{459,551,108}{75,205,214}$	611.0	$\frac{444,129,864}{83,229,826}$	533.6	$\frac{359,680,736}{88,289,943}$	407.3
10	総負債比率 100%超えると債務超過	$\frac{105,873,875}{2,083,750,063}$	5.0	$\frac{105,296,452}{2,058,661,773}$	5.1	$\frac{86,085,649}{2,029,023,185}$	4.2	$\frac{92,047,231}{2,003,233,181}$	4.5	$\frac{96,236,728}{1,958,323,580}$	4.9
11	負債比率 100%以下で低い方がよい	$\frac{105,873,875}{1,977,876,188}$	5.3	$\frac{105,296,452}{1,953,365,321}$	5.3	$\frac{86,085,649}{1,942,937,536}$	4.4	$\frac{92,047,231}{1,911,185,950}$	4.8	$\frac{96,236,728}{1,862,086,852}$	5.1
12	前受金保有率	$\frac{672,335,138}{75,150,000}$	894.6	$\frac{656,561,830}{78,550,000}$	835.8	$\frac{457,800,007}{70,450,000}$	649.8	$\frac{441,914,681}{79,950,000}$	552.7	$\frac{352,479,911}{75,950,000}$	464.0
13	退職給与引当預金率 退職給与引当特定預金(資産) 退職給与引当金	$\frac{0}{12,707,945}$	0	$\frac{0}{12,285,425}$	0	$\frac{0}{10,880,435}$	0	$\frac{0}{8,817,405}$	0	$\frac{0}{7,946,785}$	0
14	基本金比率 基本金 基本金要組入額	$\frac{1,565,994,624}{1,573,342,231}$	99.5	$\frac{1,556,079,774}{1,565,548,674}$	99.3	$\frac{1,542,858,351}{1,542,858,351}$	100	$\frac{1,539,375,094}{1,539,375,094}$	100	$\frac{1,536,877,652}{1,536,877,652}$	100
15	減価償却比率 減価償却累計額 減価償却資産取得価額(四捨入)	$\frac{291,245,407}{1,161,280,616}$	25.0	$\frac{244,385,401}{1,155,581,972}$	21.1	$\frac{201,165,890}{1,134,993,467}$	17.7	$\frac{158,012,377}{1,133,225,407}$	13.9	$\frac{115,975,408}{1,136,275,371}$	10.2